

6 会商打切り後の対蘭印交渉

614

昭和16年6月27日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

日蘭会商随員の日本軍人三名を至急退去させ
るよう蘭側要請について

バタビア 6月27日午後

本省 6月28日午前

第五五三號(大至急、外機密、館長符號扱)

一、二十七日芳澤全權一行出發後「ホ」ハ本官ニ對シ前田、

織田兩大佐及石井中佐ニ關シ左ノ通り要望セリ

蘭側カ軍人ノ滞在ヲ好マサルハ累次内話セル通りナルカ

二十七日會談ニ於テ芳澤全權ヨリ總督ニ對シ「殘餘ノ隨

員ハ次船ニテ出發スヘシ」ト言明セラレタルコトニモ鑑

ミ(此ノ點事實ナリ)前記三名ハ七月三日出帆豫定ノ淺間

丸ニ乗船セシメラレタシ

二、依テ本官ヨリ右三名カ七月十五日北野丸ニテ出帆スルコ

トハ約一週間前蘭印政府ニ通告濟ニシテ當時ハ何等ノ意

思表示ナカリシニ突如トシテ本件ヲ提起セル理由如何ト
質セル處「ホ」ハ會商當初ニ於テ軍人隨員ノ渡來ヲ拒否
スルカ當然ナリシモ日本政府ノ面子ヲ傷ケサラシカ爲特
ニ同意セル處其ノ後彼等ノ行動ヲ見ルニ會商關係事務ヨ
リハ寧口蘭印各地ノ視察調査ニ専心セル跡歴然タルモノ
アリ爲ニ軍部ハ勿論各方面ヨリ政府非難ノ聲高マリ政府
トシテモ軍人退去要求方考慮セルコト屢々ナルモ自分ハ
會商終了モ遠カラサルヘク又日本側ニ於テモ右終了ト同
時ニ軍人全部ヲ引揚ケシムル雅量アルヘシト説明シ漸ク
右要求提示ヲ押へ來レル次第ナル處日本側ハ右期待ニ反
スル態度ニ出テタルノミナラス最近得タル確實ナル情報
ニ依レハ東京外務省職員中ニスラ「會商ハ失敗セルモ陸
海軍人カ長期滞在ヲ利用シ軍事的調査ヲ遂行シ得タルハ
大成功ナリ」ト言明セルモノアル趣傳ハレラ蘭印政府部
内ノ空氣ハ俄然感情的ニ緊張シタル次第ナリト答ヘタリ
本官ハ淺間ハ七月五日發北野ハ十四日發トナルヘキニ付

僅カ九日ノ差ニ過キサル問題ヲ單ニ感情ヨリ躍起トナルハ了解ニ苦シム處ニシテ蘭側要望ハ受諾不可能ナリト述ヘタル處「ホ」ハ貴官ノ斡旋ニ依リ自發的解決ヲ期待スル次第ナルモ右不可能トセハ政府首脳部ニ於テハ必要ナル措置ヲ執ルヘシトノ議論強ク憂慮ニ堪ヘスト答ヘタルニ付具體的理由ナキニ強制措置ニ出ツルコトカ蘭印政府ノ方針ナラハ最早言フヘキコトナシ但シ其ノ結果發生スルコトアルヘキ事態ニ付テハ責任ハ蘭側ニ在ルコトヲ明確ニ致シ置キタタ尙本官ハ數年間日蘭間ニ無用ノ摩擦ヲ起ササル様最善ヲ盡シ今次會商ニ於テモ終始右精神ヲ以テ全權ヲ輔佐シ來リタル次第ナルカ蘭側カスノ如キ理不盡ノ措置ヲ執ル様ナラハ最早蘭印政府ニ愛想ヲ盡カス外ナク政府ニ事情ヲ具シ本官ノ召還ヲ要請スヘシト述ヘタル處「ホ」ハ夫迄言ハルルカラニハ一應上局ト協議スヘシト答ヘタリ

三、就テハ蘭側カ本件要望撤回ニ決定セハ問題ナキモ然ラサル場合ハ厄介ナル事態生スル可能性アルニ付豫メ御含ミ置キ請フ(前田大佐ト打合せ)

615

昭和16年6月28日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

随員軍人三名の蘭印滞在を七月十四日まで認

めるとの蘭側通報について

バタビア 6月28日後発

本 省 6月28日夜着

第五五七號(大至急、館長符號扱)

往電第五五三號二關シ

二十八日「ホ」ヨリ關係當局ト協議ノ結果日蘭國交ノ大局ヨリ考ヘ本官ノ主張ヲ入レ本件要望ハ撤回ニ決セリ但シ前田一行ハ豫定通り十四日北野ニテ出帆方配慮アリタシト通報越セリ

616

昭和16年7月14日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

蘭側対日態度の緩和促進工作について

バタビア 7月14日後発

本 省 7月15日前着

第六二三號(外機密、至急)

貴電第三七八號ニ關シ(爪哇糖買付ト蘭印側ノ對日動向ニ關スル件)

一、本件砂糖買増ハ既ニ内定済ミニシテ急ヲ要スル御事情アルニ鑑ミ蘭側ニ對シテハ「バーター」的驅引ノ材料トスルヨリモ率直ニ我方好意ヲ強調シテ蘭側態度ノ一般の改善ヲ要求スルコト可然ト認メ十四日「ホ」ヲ往訪日本政府ハ更ニ砂糖三萬乃至四萬噸買増シ方内定セリト内報セル處「ホ」ハ右ハ「グッド、ニュース」ナリ日本側好意ヲ多トスト答ヘタルニ付本官ヨリ「バーター」的ニ要望スルニハ非サルモ此ノ際蘭側トシテモ我方必需物資ノ對日輸出量増大方ニ付出來得ル限り好意的考慮ヲ加フル様切望スト述ヘタル處「ホ」ハ純軍需用物資ニ付テハ困難アルモ其ノ他ノモノニ付テハ如何ナル程度迄御希望ヲ容レ得ルヤ一應研究ノ上自分トシテモ努力致スヘシト答ヘタリ

就テハ必要物資ニ對スル蘭側態度緩和促進ニ關シ今後共右「ライン」ニテ努力スヘキニ付本件砂糖買増ハ御實行相成様致度シ

「スラバヤ」へ轉電セリ

617

昭和16年7月15日

在バタビヤ石沢總領事より
松岡外務大臣宛(電報)

日ソ兩國が開戦した場合の蘭側対日態度につ

き観測報告

バタビヤ 7月15日後発

本省 7月16日前着

第六三二號(館長符號扱)

一、當領ニ於テハ獨蘇戰爭ヲ契機トシテ日本カ蘇聯邦ヲ撃ツニアラスヤトノ疑念ヲ有スルモノ多キニ付本官トシテハ萬一スル場合アリトスル時蘭側ノ對日態度如何ヲ夫レトナク打診シ置クコト有利ト存シ當領要人トノ接觸ヲ續ケ來レル次第ナル處彼等ノ傾向ヲ綜合スレハ大體左ノ如シ

(イ)英蘇同盟ノ成立又ハ日蘇戰爭ノ勃發ハ直ニ日蘭國交ニ根本的變化ヲ齎スモノニアラス

(ロ)例ヘハ伊ハ獨ト同盟シ英軍ヲ攻撃シ居ルモ蘭ニ對シ直
接行動ニ出テ居ルモノニ非サルヲ以テ蘭ハ伊ニ對シ宣
戰セス物資供給ハ遮斷セルモ在留伊太利人ニ對シテハ
通常通り營業ヲ許シ居レリ

(ハ)萬一日蘇開戦起ルカ如キ事アルモ日本カ蘭印ニ對シ直

接敵性行爲ヲ起ササル限り蘭ノ對日態度ハ根本的變化ナカルヘシ但シ其ノ場合日本ハ蘭ノ敵タル獨逸ト戦ヒ居ル蘇聯邦ヲ撃ツ次第ナルニ付軍需物資ノ對日供給ハ制限ヲ強化セサルヲ得サルヘシ

(二)尙蘭側トシテ強調シ居ル點ハ日本カ直接蘭印ヲ攻撃スルコトナシトスルモ佛印占領又ハ新嘉坡攻撃等ノ擧ニ出ル時ハ蘭ハ右ヲ以テ蘭印ニ對スル直接脅威ト看做ササルヲ得サル次第ニシテ適當ノ對策ヲ講スル必要ニ迫ラルルコト之レナリ

三、尤モ我國ノ對英米關係ノ推移竝ニ英米ノ對蘭印策動如何ニ依リテハ前記ノ傾向ニ異變ヲ生スルコト有リ得ヘシト存スルモ御參考迄

618 昭和16年7月17日 松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)

蘭印産ゴムの対日輸出货量に関する在本邦蘭国 公使館商務官との会谈内容通報

本省 7月17日後10時30分發

第三九八號(極秘)

一、蘭側ノ最後回答ニ於テ護謨ノ對日輸出ヲ條件附ニテ一萬

五千屯ニ限定シタル件ニ關シ本月十一日姉齒ヨリ「ド、ロース」ニ對シ右ハ客年東京ニ於テ外務大臣ト「パブスト」公使トノ間ニ成立シタル協定ニ反スルモノニシテ之

カ爲當時貴官ト話合ヲ行ヒタル自分トシテ重大ナル責任ヲ感シ居ルニ付是非共約束通一ケ年二萬屯ノ對日輸出原則實行スル様盡力アリ度ト語リタル處「ド」ハ早速「パ」ト協議スヘシト答ヘ其後「ド」ヨリ「パ」ハ右ハ

尤モノ儀ナリトテ總督ニ對シ再考方電報セリト通告シ來レル趣ナルニ付御承知置相成度

二、尙其際「ド」ノ質問ニ對シ姉齒ヨリ獨逸カ「ヴェイシー」

政府ト直接交渉ノ結果買取リタル二萬五千屯ノ内神戸ニ運搬セル一萬屯ノ護謨ハ獨逸ノ所有品ニテ既ニ日本ヲ離レ獨逸向ケ輸送セラレタル筈ナルカ現在何處ニ滯貨トナリ居ルヤ詳知セス又殘一萬五千屯ハ佛印ヨリ積出サレ居ラサル由ナルカ本邦ノ買付クヘキ一萬五千屯ハ在庫品ナキ爲未タ入手スルニ至ラサル實情ナリ

又泰國ヨリ買付ケ方交渉中ノ三萬五千屯「ド」ハ本件交渉ノ情報ヲ握リ居ル由ニ付テハ現在未タ何等協定ニ達

シ居ラスト答ヘタル趣ナリ御參考迄

619

昭和16年7月18日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日本が南部仏印への基地獲得を進めていると
の蘭印紙論説報告

バタビア 7月18日後発

本省 7月19日前着

第六五四號

日本カ佛印南部ニ基地ヲ求メントシツツアリトノ情報ハ連
日當地新聞紙面ヲ賑ハシ居ル處十八日「バタヴィアニュー
スブラット」ハ大要左ノ通り論評セリ

日本カ佛印南部ニ軍事基地ヲ求メント爲シ居レリトノ情報
ハ現在ノ所日本政界ノ動キニ基ク推測ニ止マリ日本陸海軍
ノ行動ニ基ク具體的ノモノニ非サルモ日本新聞カ最近一齊
ニ佛印攻撃ノ論陣ヲ張リタルハ近衛内閣ノ瓦解ト相俟テ右
推測ニ拍車ヲ掛ケタリ右カ眞ナリヤ否ヤハ新内閣ノ陸海外
三大臣カ何人ニ依リ占メラルルヤニ依リ判明スヘシ假ニ右
政策カ實行セラルルトシテモ日本軍部ハ次ノ二點ヲ考慮ノ

要アリ即チ日本軍ノ佛印進駐ハ單ニ兩當事國丈ケノ問題ニ
アラス太平洋ニ利害ヲ有スル英國特ニ英、米ノ關係アル問
題ナリ先ニ佛印北部ニ日本カ力ヲ進メタル當時ハ英米ノ準
備不足ト英國カ日本トノ妥協ニ未練アリタル爲遂ニ消極的
態度ヲ取ルノ已ムヲ得サルニ至リタルモ今日ニ於テハ然ラ
スA B C D(英、米、支那、蘭印)戰線ハ極メテ強固ニシテ
日本トシテモ之ヲ無視シ得サルヘシ之ヲシモ押切ツテ危険
ヲ侵サントスルヤ否ヤハ近衛内閣ノ顔觸レニ依リ決定セラ
ル一方佛印ニ於ケル空氣ハ反日、親英米ニシテ英米ト協力
セントスル空氣強ク日本ノ要求ニハ輕々ニ應セサルヘク之
ニ對スル英米ノ援助カ一年前ト比較ニナラサル點ヨリ觀テ
尙更ナリ

御見込ニ依リ英米其ノ他ヘ轉電アリタシ
濠洲、河内、新嘉坡ヘ轉電セリ

620

昭和16年7月19日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

独ソ開戦を理由とした対日輸出量増加要求に
対する蘭側回答振り報告

バタビア 7月19日後発
本省 7月19日夜着

第六三五號(外機密)

蘭印政府ハ今次會商中軍需物資對日輸出货量増加ニ關スル我
方要求ニ對シテハ對獨再輸出ノ懸念アリトノ理由ニテ日本
内地ニ於ケル實需ノ限度迄輸出ヲ許可スヘシトノ方針ヲ固
執シ來リタル處獨蘇開戰ノ結果右懸念ハ消滅セル次第ナル
ヲ以テ過日「ホ」通商局長ト面談ノ際本官ヨリ蘭側從來ノ
理由解消セル旨ヲ指摘シ對日輸出货量増加ヲ要求セリ右ニ對
シ「ホ」ノ答ヘタル要領左ノ通り

(イ)獨蘇戰爭ニ對スル近衛及松岡聲明ハ奧齒ニ物ノ挾マリ居
ル感アルノミナラス日本ノ空氣ハ蘇聯ヲ擊ツヘシトノ方
向ニ進ムニアラスヤト思ハシムルモノアリ和蘭ハ蘇聯ノ
「イデオロギー」ニハ絶對ニ反對ナルモ蘇聯カ獨逸ヲ擊
ツハ好シキコトナリ

從テ若シ日本カ蘇聯ヲ擊ツカ如キ場合ハ日本ニ供給スヘ
キ軍需物資ヲ制限スルノ必要ヲ生スヘシ

(ロ)若シ獨逸カ勝利ヲ收メ「ヴェイシー」政府ノ如キ假政府ヲ
樹立シ之ト特殊關係ヲ結フニ至ラハ西比利亞鐵道ノ開通

モ可能トナルヘク日本ニ送リタル物資カ獨逸ニ再輸出セ
ラルコト無キヲ保シ難シ

(ハ)要スルニ情勢ノ推移不明ナルヲ以テ蘭側トシテハ現状ヲ
維持スル外無キモ若シ蘇聯邦優勢トナリ日本ノ中立態度
確定スルニ至ラハ對日物資輸出問題ハ自ラ再検討セラル
ルコトトナルヘシ御參考迄

「スラバヤ」へ暗送セリ



621 昭和16年7月21日 豊田外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

貿易統制令施行規則の発動理由に関するわが

方説明振り通報

別電 昭和十六年七月二十一日發豊田外務大臣より

在バタビア石沢総領事宛第四〇九号

右規則の運用方針

本省 7月21日後9時30分發

第四〇八號(極秘)

貴電第六一四號ニ關シ

一、今次輸出統制令施行規則發動ノ理由ニ關シ「下、ロー

ス」ノ質問ニ對シ本省係官ヨリ大要左ノ通説明^{編注}シ置タルニ付御參考マテ申進ス

輸出統制ノ必要ヲ認メタルハ客年末以來ノコトナルモ日本ノ輸出貿易品ハ輕工業製品カ主ニシテ之ニ依存スル企業家及勞働者ノ關係ヲ考慮シ且ツ日本ハ貿易ヲ以テ産業政策ノ根幹ト爲ス建前ヲ保持スル關係上自國ノ生産ニ依ル原料ノ餘裕アル限りト諸外國ヨリ輸入スル原料特ニ棉花ノ輸入ニ支障起ラサル限り輸出ヲ圓滑ニスル方可然トノ意見支配的ニシテ本年ニ入りタリ然ルニ本年五月頃ヨリ世界的ニ船腹ノ不足ニ依リ外國船ノ備船全然不可能トナリ之カ爲北米、中、南米ハ勿論英領印度方面ヨリノ棉花輸入頗ル困難トナリ加之船賃、保険料等ノ暴騰ニテ原價甚シク高マリ此分ニテハ到底輸出貿易ヲ自由放任トスルコト不可能トナリタリ

又一方日本トシテハ滿洲及支那ニ於ケル我占領地域ニ對スル綿布ノ供給ヲ爲ササルヘカラサル事情迫リ居リ此點ハ實ハ日本内地ニ於テモ同様ニテ殊ニ濠洲及南阿ヨリノ羊毛輸入不如意ナルヲ以テ綿糸布ハ圓域ニ於テ極メテ重要視セララルニ至レリ

右ノ如キ次第ニテ差當リ輸出ヲ調整シテ國內ノ在庫高ト圓域内ノ實需ト睨ミ合ハス必要アリ旁今回ノ統制ニ出テタルモノニシテ從テ蘭印ノミナラス全世界ニ對シテ全ク同様ノ措置ニ出タリ尙綿糸布以外ノ品目ニ付テモ右趣旨ニテ詳細説明セリ

三、輸出調整機關トシテ指定セラレタルモノハ十九ノ各種輸出組合及日本貿易振興會社外十ノ各種商品輸出振興會社ナルカ輸出業者ハ或種商品ノ輸出ニ當テハ先ツ當該商品ノ輸出調整機關タル組合或ハ振興會社ヨリ「輸出承認書」(組合關係分)又ハ「販賣證明書」(振興會社關係分)ノ發給ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ提出ノ上船積ヲ爲スコトトナリ居レリ

三、尙輸出統制規則ノ運用方法其他ニ付別電第四〇九號ノ通貴官限り御含置アリ度

本電別電ト共ニ「スラバヤ」ヘ轉報アリ度

編注 本件施行規則(昭和十六年七月七日公布)に關する在本

邦ド・ロース蘭國公使館商務官の質問に対して姉齒領事が説明を行ったのは七月十一日。

(別電)

第四〇九號(機密)

本省 7月21日午後9時30分發

輸出統制規則ノ運用ハ本規則施行早々ノコトニテ未タ具體的ニ決定セサルモ大體左記方針ニ依リ實行ス

一、輸出禁止品及輸出制限品ノ利用方法

イ、「輸出禁止品」(商工大臣ノ許可ヲ要スルモノ)ハ原

則上一般ニ輸出ヲ禁止スルモ原料資材ノ餘裕有無ヲ睨

ミ合セタル上相手國カ本邦ノ必需トスル物資ノ對日輸

出ヲ許可スル場合ハ特ニ之ニ對スル「バーター」トシ

テ我方ニ於テモ當該國ノ必要トスルモノハ輸出禁止ノ

建前ニ在ル商品ト雖モ其輸出ヲ許可スルコトアルヘシ

ロ、「輸出制限品」(指定品目)ニ付テモ亦右ト同様ノ方

法ニ依リ一定ノ輸出額以上(次項ニ參照)ト雖モ輸出ヲ

許可スルコトアルヘシ

二、「輸出制限品」ノ差當り割當方法

「輸出制限品」ハ國別(或ハ地域別)及輸出商社別割當ヲ

爲シ從來ノ當該國ヘノ輸出額及從來ノ各輸出商社取扱額

ニ付主義上公平ヲ期スル方針ナリ從テ一特定年度又ハ二、

三特定年度ノ輸出額平均ニ據ルカ或ハ之ニ對スル二、三

割方ノ増減ヲ以テ當該國向新規輸出額(各輸出商社ニ對

スル輸出許可割當モ之ニ準ス)ト定ムルコト合理的方法

ナルモ世界貿易ノ狀態激變過程ニ在ル今日此ノ如キ方法

ヲ嚴格ニ採用スルコト事實上困難ナルヲ以テ差當り原料

資材ノ在庫高及其補充等四圍ノ事情ヲ睨ミ合セ且政治的

考慮ヲモ加ヘ國別的ニハ各期(會計年度ヲ四期ニ分チ)

ニ於ケル各商品別輸出豫想高ヲ定メ之ヲ目標トシテ輸出

ヲ許可シ又各輸出商社ニ對スル輸出許可モ之ヲ基準トシ

テ定ムルコトトセリ

三、契約品ノ輸出ニ付面倒ナル問題ノ發生防止ノ爲「輸出制

限品」ニ屬スルモノニ對シテハ受註^(受注)録制ヲ採用シ登録ノ

都度調整機關タル振興會社及輸出組合ニ於テ受理スヘキ

ヤ否ヤヲ決定ス

四、尙調整機關ノ事務的內容不整備ノ爲輸出入業者ノ苦情起ル

惧アル處之ニ付テハ事實問題トシテ解決スル方針ナリ

五、貴電第六一一號ニ關シテハ本件實施決行前ヨリ關心ヲ拂

ヒ居タルトコロニシテ日系紡績ニ對シテハ容易ニ制限措

置ヲ施シ得ルモ支那及英國系ノモノニ付テハ多大ノ困難
アリ目下其對策ヲ練リツツアリ

622

昭和16年7月24日

在バタビア石沢總領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蘭印在留邦人の実情に鑑み援助対策確立方意

見具申

バタビア 7月24日午後發

本 省 7月24日夜着

第六七一號

一、⁽¹⁾着任後本官ハ數次ノ爪哇島内出張ヲ利用シ各地在留邦人
ノ實情特ニ中小小賣商ノ現状ヲ詳ニ視察スルト共ニ最近
各地ヨリ邦人卸商代表十餘名ヲ召集シ二日ニ亘リ意見交
換ヲ行ヒタルカ其ノ結果到達セル判斷左ノ如シ

(一)輸入卸商ハ最近商品ノ値上リト約半年分ノ「ストツ
ク」ヲ保有シ居ル爲茲暫クハ心配ナク從テ小賣商モ六
ケ月位ハ何トカ立行クヘキモ五、一二制限令等ノ輸入
抑壓ニ依リ其ノ後ニ至ラハ卸、小賣ヲ問ハス取扱品
種著シク減少シ店頭ノ商品寥々タルニ至リ經營難ニ陷

ルコト明カニシテ他面物價ハ益々騰貴シ各種課稅モ増
加シ大衆ノ生活費ハ増大ノ一途ヲ辿ルニ拘ラス收入ハ
物産輸出窮屈ノ爲之ニ伴ハス購買力ノ減退ヲ見ルコト
疑問ノ餘地ナク邦商ノ前途暗澹タリ

而モ此ノ情勢ハ歐洲戰爭繼續中ハ益々惡化シ行クト共
ニ戰爭終了後ト雖モ恢復迄ニハ相當期間ヲ要スヘシ

(二)在留邦商トシテハ前記ノ形勢ヲ漸ク認識シ始メタルカ
唯前途ノ不安ニ動搖シ居ルノミニシテ來ルヘキ困難ヲ
如何ニシテ突破スヘキヤノ成算ナク専ラ強力ナル指導
ト援助トヲ切望シ居レリ

(三)⁽²⁾今次會商中詳細報告致シ置キタル通り蘭印政府ハ實需
品ニ付テハ國內産業ノ進行ニ依リ大衆ノ需要ヲ充タサ
ントノ方針ナルノミナラス小賣商經營ノ如キモ今後ハ
商業學校ニ於テ土人ヲ教育シタル上之ヲシテ當ラシム
ヘク既ニ學校設立及補助金制度確立ニ着手セリ
又資本的ニ強力ナル支那小賣商ハ虎視眈々トシテ邦商
ノ地盤ニ喰込マントシツツアリ邦商ニシテ舊體ノ儘ニ
推移セハ遠カラス退却ノ餘儀無キニ至ルヘク退却セハ
地盤ノ再獲得モ早ヤ不可能ナルヘシ

三、事情右ノ如クナルニ付早キニ及ンテ邦商全般ノ覺醒ヲ促シ自力更生ノ道ヲ講セシムルト共ニ政府モ亦之カ援助對策ヲ確立シ出先領事指導ノ下ニ銀行、會社有力筋ノ協力ヲモ求メ局面ノ打開ヲ圖ルコト喫緊事ナリト思考ス
對策ニ關スル卑見追テ電報スヘシ

623

昭和16年7月25日

在バタビア石沢總領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日本軍の南部仏印進駐を懸念する蘭印紙論調について

バタビア 7月25日後発

本省 7月26日前着

第六八〇號

日本軍ノ佛印進駐ニ關スル二十五日附各紙論調左ノ通り
一、「バタヴィアニユースブラット」日本ハ戰略的ニ有利ナ地歩ヲ占メ新嘉坡及蘭印ハ日本爆撃機ノ行動範圍ニ包含セラルルコトトナリタルカ日本カ此ノ據點ヲ利用スル時機カ到來スルヤ否ヤカ問題ナルト共ニ日本ヲシテ好機到來ヲ待タシムル爲吾人カ拱手傍觀スルコト得策ナリヤ否

ヤモ問題ナルヘシ英國カ手出ヲ差控ヘ居ルハ各地テ手一杯ナレハ新シキ紛争ヲ好マサルニ依リ米國又依然トシテ輿論ノ動向ノミヲ氣ニシ居ル有様ナリ吾人トシテハ物事ヲ有利ニ解釋スル前ニ事實ヲ直視スルヲ要ス最近宣傳セラレ居ルA B C D戰線モ新聞電報トシテノミ價値ヲ有シ實際ニハ無力ナリ右ハ吾人ノ盟邦乃至ハ蘭印政府ヲ非難スル爲ニ言フニ非ス眞實ヲ述フルニ過キス萬一ノ場合米國ハ蘭印ヲ援助スヘシト子供ヲシキ期待ヲ持ツ者非常ニ多キモ最近ノ事態ハ之ト全ク反對ナリ如何ナル場合ニモ最モ安全ナル道ハ自己ノ力ヲ頼ムコトナリ

臺灣總督へ轉電アリタシ

泰、河内、新嘉坡、馬尼刺、「シドニー」へ轉電セリ

624

昭和16年7月26日

豊田外務大臣より
在バタビア石沢總領事宛(電報)

蘭印におけるわが方ギルダ―資金総額および米國の対日資産凍結が蘭印の対日輸出許可に及ぼす影響報告方訓令

本省 7月26日後7時50分発

第四三〇號(至急、極秘)

左ノ二點至急電報アリ度

一、我方ニ於テ蘭印物資買付代金トシテ使用シ得ヘキ盾資金

(二百萬盾ヲ加算シタルモノ)總額

二、日本軍ノ西貢進駐及米國ノ我在米資金凍結(二十五日發

令セルカ詳細追電スヘシ)ノ結果蘭印ニ於ケル物資ノ對

日輸出許可下附ニ對スル影響

「スラバヤ」ヘ轉電アリ度

625 昭和16年7月27日 在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に対する蘭印各方面の反響報告

バタビア 7月27日前發

本省 7月27日前着

第六八七號(至急)

一、佛印問題ニ對スル當領政府側ノ態度ニ付テハ先方ヨリ本

件ニ觸レ來タル機會ヲ捕ヘテ内探スヘク心懸ケ居リタル

處二十五日面談ノ際「モ」經濟長官ハ何等之ニ觸レサリ

シモ二十六日面會ノ「ウツヘレン」移民局長ハ日本ノ佛

印南部占據ハ日英關係ヲ惡化セシメ日英戰爭勃發セハ蘭

ハ英ト共ニ戰フコトヲ餘儀ナクセラルヘク憂慮ニ堪ヘス

ト述ヘタルニ付本官ノ個人的觀測トシテハ米華僑等ノ策

動ニ依リ佛印物資ノ對日供給妨害セラレタル事實アルニ

付日本ハ之ヲ防衛セントノ目的ヨリ「ヴィシー」政府ト

話合ヲ行ヒタルモノナルヘシト答ヘタル處「ウ」ハ然ラ

ハ軍事基地占據ノ理由如何ト問ヘルニ付英米ノ對支援助

強化ト「シリア」ノ例モアリ佛印ヲ放任セハ經濟的二モ

軍事的二モ英ノ支配下ニ歸スル危險逼迫セル爲ナルヘシ

ト應酬セル處「ウ」ハ英米側ハ左様ニハ見居ラス兎ニ角

困ツタ事ナリト洩ラセルニ付直ニ日英戰爭ノ勃發スルカ

如キ事モナカルヘク本件ハ日蘭關係ニハ直接影響ナキニ

アラスヤ我々トシテハ從來通り兩國關係改善ニ努力スル

コト然ルヘシト述ヘタル處「ウ」ハ半信半疑ノ面持ヲ示

シタリ

二、二十四日「リットマン」情報部長ハ日本人記者團ニ對シ

個人的意見トシテ英國ハ本件ニ依リ對日戰爭ヲ起スコト

ハナカルヘシト觀測スル旨語レル趣ナリ

三、邦人銀行會社筋ノ報告ニ依レハ蘭商筋ハ今日迄ノ所本件

ニ關シテハ一切口ヲ緘シ居ル趣ナリ

四、「ホ」局長ハ目下休暇不在ナルモ會商當時日本軍ノ佛印
北部進駐ハ蘭印ニ對シ直接脅威トハナラサルモ南部ニ迄
進駐スルカ如キコトアラハ夫レハ(二語不明)及蘭印ニ對

スル直接脅威ニシテ默視シ得サル旨ヲ強調シ居リタリ

五、總督官邸ノ模様ヲ注視シ來タレル處二十五日夕刻ニハ同
官邸廣庭ニハ多數高官ノ自動車群カリ居リタリ

六、印度評議會新任議員「ファン、デル、プラス」ニ對シニ

十六日午前答禮往訪ノ爲電話ニテ都合ヲ尋ネタル處會議
ニテ多忙ナルノ故ヲ以テ面會ヲ二十九日ニ延期シタキ旨

回答アリタリ

七、要スルニ蘭印政府ニ於テハ佛印問題ニ關シテハ深刻ニ今
後ノ對策ヲ熟議シ居ル模様ナリ不取敢

本電要領ヲ濠洲、河内、新嘉坡、「タイ」、馬尼刺へ轉電セ
リ



626

昭和16年7月27日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日蘭印金融協定の停止をジャワ銀行より横浜

正金銀行へ通告について

バタビア 7月27日後発
本省 7月28日前着

第六九一號(大至急)

二十七日午後八時頃爪哇銀行總裁ヨリ

同總裁ハ正金銀行頭取宛第十二條ニ基キ金融協定ヲ停止ス
ル旨打電セル趣正金今川ニ電話越シタリ次テ爲替管理局長
ヨリ二十八日午前七時半今川ト經濟省ニ於テ會談シタキ旨
電話越セル趣ナリ不取敢



627

昭和16年7月28日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日蘭印金融協定停止につき説明のため蘭印經

済長官より会見申入れについて

バタビア 7月28日前発
本省 7月28日後着

第六九二號

往電第六九一號ニ關シ(正金銀行頭取宛金融協定停止方電

報ノ件)

「モ」長官ヨリ本件蘭側措置説明ノ爲ニ二十八日午後十二時半本官ト會見致度キ旨申越シタリ

628

昭和16年7月28日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

対日資金凍結および対日輸出の全面的許可制
実施を蘭印政府通報について

バタビア 7月28日後発
本省 7月28日後着

第六九四號(大至急)

往電第六九二號ニ關シ

「モ」長官ヨリ本二十八日蘭印政府ハ左記趣旨ノ聲明ヲ發表スルコトニ決定セル旨書面ヲ以テ通報越セリ

本二十八日ヨリ

一、日蘭印間ノ爲替取引ヲ當分停止ス

二、蘭印ヨリ日滿支及佛印向ケ輸出ハ全面的ニ許可制トス

三、在蘭印全銀行ニ對シテハ經濟長官ノ許可無キ限り日本臣民ノ爲支拂又ハ受人ヲ爲スコトヲ禁止ス

右措置ニ依リ日本トノ資金及物資取引ハ凍結セラレタリ換

言セハ全面的特別許可制ノ下ニ置カルコトナリタリ但シ蘭印ニ於ケル日本人事業領内活動ニ付テハ之ヲ妨碍スル意志ナシ

「スラバヤ」「メダン」「メナド」「マカツサル」ニ轉電セリ

629

昭和16年7月28日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

資金凍結等の対日措置に関する蘭印政府の説

明要旨報告

バタビア 7月28日後発
本省 7月29日前着

第六九五號(大至急)

往電第六九四號ニ關シ

本聲明ニ關スル蘭印政府ノ説明書(「モ」ヨリ送付越セルモノ)要旨左ノ通り

一、日本政府ハ去ル七月七日ニ輸出規定ヲ實施セル處右ハ特

ニ蘭印ノ輸入シ來レル商品ニ關係アリ而シテ右措置ハ英帝國及蘭印ヲ目標トセリ爲ニ日本ヨリ蘭印ヘノ輸出ハ拘

束セラレ七月二十日以後ハ殆ト停止スルニ至レリ一方在

日蘭商ハ倉庫渡條件ノ下ニ商品ノ受取り及支拂ヲ續ケ居
レリ

二、右ノ結果在日蘭商ノ手持在荷ハ増大スル一方ナルニ右ニ
對シ日本政府カ輸出許可ヲ與フルヤ否ヤ頗ル疑ハシク蘭
商ハ多大ノ損失ヲ蒙ルル惧アリ情報ニ依レハ日本側カ輸
出不可能トナレル商品ニ對シ提供スル賠償金ハ僅少ナル
ト共ニ之ヲ盾又ハ弗ニ換金スルコト困難ニ付右損失ノ危
險ハ一層大ナリ

三、上記理由ニ依リ蘭側トシテハ圓支拂ヲ停止スルコト必要
トナレリ而シテ政府ハ既ニ七月二十六日以前ニ於テ右損
失補償ノ爲日本側ノ在蘭印盾資金ヲ之ニ充當スル措置ヲ
執ルヘク考慮シ居リタリ

四、今般政府ハ米國及英國ノ執レル措置ニ關聯シ三個ノ措置
ヲ執ルニ至レリ

五、第一ニ「ジャワ」銀行ト横濱正金間ノ金融協定停止セラ
レタルカ右ハ協定ノ基礎ヲ爲ス弗ノ決濟不可能トナレル
カ故ナリ而シテ圓ノ建値ハ圓及盾ノ弗ニ對スル建値ヲ基
礎トナシ居タル處右圓建不可能トナレルニ付蘭印ヨリノ
圓支拂モ行ハレ難キニ至レリ

六、右ニ依リ蘭印ノ對日貿易ハ事實上既ニ純粹ナル物資交易
(註「バター」)ニ局限セララルル次第ナルカ國際情勢ハ
更ニ日滿支及佛印ニ對スル輸出ヲ全面的ニ許可制トスル
コトヲ必要ナラシメタリ而シテ右ハ同時ニ日本ノ輸出許
可制ニ對スル對抗措置トナル次第ナリ

七、尙日本側ノ在蘭印盾資金ヲ蘭側ノ蒙ルヘキ損害ノ補償ニ
充當シ得ルカ如ク手配スル爲陸軍司令官ノ命令ニ依リ在
蘭印各種銀行ハ二十八日以降經濟長官ノ許可無キ限り日
本又ハ日本臣民ノ計算ニ於テ支拂又ハ受入ヲナスコトヲ
禁止セラレタリ

八、以上ニ依リ兩國間交易ヲ完全ニ支配シ得ル豫防措置完成
セリ佛印ニ於ケル最近ノ日本側行動ニ鑑ミ今後日蘭印間
ニ如何ナル交易カ可能ナルヤ竝ニ右交易ハ如何様ニ調整
セラレ得ルヤニ付テハ追テ調査ノ豫定ナリ

九、尙政府ハ蘭印内日本人事業ノ領内活動ヲ困難ナラシムル
意思無キコトヲ重ネテ附言シ置キタク必要ナル許可下附
ニ當リテハ出來得ル限り右見地ニ基キ手心ヲ加フヘシ
「スラバヤ」、「メダン」、「メナド」、「マカツサル」ニ轉電

セリ

昭和16年7月28日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

資金凍結等の対日措置に関する蘭印経済長官

との会談内容報告

バタビア 7月28日後発

本省 7月29日前着

第六九六號(大至急)

往電第六九五號ニ關シ

一、二十八日午後十二時半「モ」長官ヲ往訪先ツ本官ヨリ今次資金凍結及物資ノ全面的許可制度ニ關スル政府聲明及説明ヲ一讀シタルカ和蘭ハ英米ト共同戦線ヲ張り以テ對日經濟封鎖ヲ爲スモノナリトノ強キ印象ヲ得タリ眞意如何ト質セル處「モ」ハ或程度迄獨自ノ見解ニ基クモノナルモ英米ノ措置ト「コインサイド」セルコトハ否定セスト答ヘタリ

二、次ニ本官ヨリ蘭商ノ既契約品ニ就テハ日本政府ニ於テ圓滿ナル解決方法考慮中ナリシニ拘ハラス何等豫告モナク對日措置トシテ今次全面的輸出許可制ヲ實施セルハ非友好的ナラスヤト質セル處「モ」ハ最近入港豫定ノ日本船

ハ行衛不明トノ情報サヘアリ萬一入港セサル時ハ蘭商積出ノ貨物ハ取消不可能トナル惧モアリ旁々至急處理ノ必要上豫メ日本側ト聯絡セサリシ次第ナリト答ヘタリ

三、本官ヨリ蘭側説明書ハ日本側輸出許可制ハ英帝國及蘭印ヲ目標トスト記載シ居ル處日本側措置ハ世界全體ニ對スルモノナレハ事實ニ反シ不當ナリト突込ミタル處「モ」ハ「バ」公使ヨリノ情報ニ基キ右様説明セル次第ナリト答ヘタリ(此ノ點「バ」ノ誤解ヲ解カレタシ)

四、次ニ本官ヨリ蘭側今次ノ全面的輸出許可制ノ根本趣旨ハ佛印問題ヲ契機トシテ實際上對日物資輸出ヲ禁止セントスルモノナリヤト質セル處「モ」ハ其處迄行過キタル考ハナク今後ノ貿易ヲ如何様ニ調節スルヤニ付テハ貴總領事トモ追テ意見交換ヲ重ネ度キ意嚮ナリト答ヘタリ

五、次ニ豫告ナク爲替協定ヲ停止セルハ非友好的ナラスヤト質セル處「モ」ハ協定ハ其ノ規定ニ依リ自動的ニ停止セルモノニシテ爪哇銀行カ正金本店ニ打電セルハ停止ノ事實ヲ「レマインド」セルニ過キス今次ノ調節ニ付テハ爪哇銀行ニ於テ正金ト懇談ノ用意アリト信スル旨答ヘタリ

六、領事館公金及在留民ノ資金ニ對スル取扱如何ト質セル處

「モ」ハ公金ニ付テハ且下一般規則ヲ作成中ニシテ近ク御知ラセスヘキモ出來得ル限りノ便宜ヲ計リ日常ノ營業及生活ニハ支障ヲ來サシメサル様配慮スヘシト答ヘタリ

七、最後ニ本官ヨリ從來蘭側ハ英米ノ壓迫等ニ依リ行動スルモノニアラス全ク獨自ノ立場ヨリ行動スル旨述ヘラレ居タルカ重ネテ此ノ點ニ關スル蘭側態度ヲ明確ニ承知シ置キタシ萬一英米ト完全ニ提携ストノコトナラハ右ハ日本朝野ニ甚大ナル反動ヲ呼起スヘシト述ヘタル處「モ」ハ壓迫等ニ依リ行動スル次第ニハアラサルモ戸ノ外ニ危険ノ迫リタル場合ニ味方ヲ求ムルハ當然ナリト答ヘタリ依テ本官ハ佛印共同防衛ニ關スル日佛協定成立ヲ以テ蘭印ニ對スル直接ノ脅威ト言ハルルハ不可解ナリ英米カ對日經濟封鎖ニ乗出シ蘭印又對日物資輸出ヲ窮屈ナラシメ居ルノミナラス佛印ニ對スル英米ノ策動アリ英ニシテ「シリア」ニ對スルト同様ノ行動ヲ佛印ニ對シテ起スコトナキヲ保シ難キ今日佛蘭西トノ合意ニ依リ同地方ノ共同防衛ヲ行フハ當然ノ理ニシテ蘭側カ英米ニ追従シ日本ニ對シ軍事的又ハ經濟的ニ挑戦セサル限り蘭印トシテ何等心

配セラルル要ナシト應酬セル處「モ」ハ貴官ノ御説明ハ興味深ク感スルモ日本ノ軍事基地カ五百哩ノ近クニ進出シタル事實ト日本ニ於ケル輿論ノ傾向ニ鑑ミ蘭側トシテハ自己ノ安全ノ爲總ユル手段ヲ講スヘキハ已ムヲ得サル次第ナルカ總テハ佛印ニ於ケル事態ノ進展如何ニ係リ居レリト述ヘタリ

「スラバヤ」「メナド」「メダン」へ轉電セリ



631 昭和16年7月28日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蘭印での対日資金凍結実施における蘭側と英

米との関係性につき観測報告

バタビア 7月28日後発
本省 7月29日前着

第六九七號(大至急)

往電第六九六號ニ關シ

一、米英ノ今次措置ト蘭印ノ夫レトヲ比較スルニ

(イ)通商條約ヲ廢棄セス

(ロ)船舶ヲ抑留セス及

(ハ) 政府聲明及説明ニ於テ日本ヲ積極的ニ非難攻撃セス

(ニ) 全面的輸出許可制ヲ日本ノ夫レト結付ケ蘭商ノ既契約
品問題等圓滿ニ解決スルニ於テハ對日物資輸出モ若干
寛大ニ取扱フ用意アルヤノ氣配ヲ示シ居ル點

等ニ於テ英米ヨリハ弱腰ナルモ實質的ニ英、米、蘭ノ共
同經濟戰線ヲ張リタルコトハ疑ナク唯露骨ニ日本ヲ刺戟
シテ我方ノ對蘭印軍事行動ヲ誘發スルハ不得策ナリトノ
見地ヨリ日本ノ輸出許可制等ヲ口實トシテ表面ヲ糊塗セ
ルモノト認メラル

三、二十八日「モ」トノ會見ニ於テハ佛印ニ於ケル日本側今
後ノ動キ如何ニ依リテハ對日全面的經濟封鎖ニ出ツルハ
勿論萬事英ト共ニ共同ニ行動ヲ執リ更ニ米トモ軍事同盟
ヲ締結スル可能性アリ

632

昭和16年7月29日

在バタビア石沢總領事より
豊田外務大臣宛(電報)

資金凍結等の対日措置に関する蘭印紙論調報告

バタビア 7月29日前發

本省 7月29日前着

第六九八號

對日爲替協定破棄ニ關スル二十八日蘭字紙論調ヲ見ルニ何
レモ蘭側今回ノ措置ハ已ムヲ得サルニ出テタルヲ強調シ居
ルモ之ニ對スル日本側報復手段ニ對スル危惧ノ念相當深刻
ニ看取セラル

一、爪哇「ボーデ」

英、米ハ遂ニ日本ノ資金凍結ノ擧ニ出テタルカ蘭側今次
措置ハ(イ)蘭印カ佛印ニ對スル日本ノ措置ニ依リ日本ノ脅
威ヲ著シク感シタルコト(ロ)七月七日日本ニ於テ對蘭印輸
出許可制ノ實施ヲ見タルコトニ基キ執ラレタルモノナリ
右ニ對スル日本側報復手段ハ未詳ナルモ結局蘭印ニ對シ
テ最モ重大ナル報復手段カ執ラルヘキハ云フ迄モ無ク例
ヘハ日本カ石油ヲ是非共必要トセハ手近ナル「ボルネ
オ」油田ハ直ニ奪取セラルヘキ運命ニ在リ政府ハ既ニ之
カ對策ヲ講シ居ルモノト信スルモ其ノ場合英、米ハ必ス
援助スルモノト期待セラル然レトモ場合ニ依リテハ吾人
ニテモ防衛ニ當ルヘシ

三、「バタヴィア」「ニユースブラット」

政府ノ措置ハ日本ニ對スルモノノ如キモ他面ニ於テハ吾

人ニ對スルモノトモ云フヘシ即チ米國品ハ高價ナルト共ニ現下船腹不足ノ折柄輸入困難ナルニ安價ナル日本商品ハ輸入シ得サルコトトナルヲ以テナリ然レトモ吾人ハ喜ンテ國策ノ犠牲トナルヘシ兎ニ角政府ハ今後對日經濟關係ヲ完全ニ抑ヘ得ヘク必要ニ應シ一般太平洋諸國ト協議シ又ハ協議セスシテ凡ユル措置ヲ執リ得ルコトトナレリ

三、「ニユースフアンデンダツフ」

蘭印ノ今次措置ヲ以テ英、米ニ追隨セルモノナリト云フ者アランモ右ハ當ラス國際情勢ノ變轉ニ基キ蘭印自ラ己ム無ク執レル措置ナリ然レトモ右ハ必スシモ對日輸出ノ絶對的阻止ヲ意圖スルモノニ非スシテ日本ノ態度如何ニ依リテハ多分ノ伸縮性ヲ持テルモノナリ吾人ハ日本力強硬ナル態度ヲ執ラサルコトヲ祈ルモノナルモ萬一二備ヘ準備ヲ全フスヘキナリ

「タイ」、河内、新嘉坡、馬尼刺、「オーストラリヤ」聯邦ヘ轉電セリ

633

昭和16年7月29日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

資金凍結等の措置に伴う個々の事態には合理的解決に努めるとの蘭印側説明について

バタビア 7月29日後發着
本省 7月29日夜着

第七〇〇號(大至急)

一、二十九日「スヒンメル」通商局長代理ヲ往訪蘭印政府トシテハ本邦船舶留ノ意思無キコトト思考スル處如何ト質セル處右様意思ハ無キニ付御安心アリタシト答ヘタリ次ニ日蘭丸及「チエリボン」丸入港ノ豫定ナル處荷揚ハ問題無カルヘキモ既ニ船腹豫約濟ノ蘭印物資積取ヲ許容スルヤ否ヤト質セル處「ス」ハ蘭側トシテハ全面的ニ一時輸出ヲ禁止スルカ如キ考ヘ無ク新事態ノ下ニ於テモ出來得ル限り貿易ヲ持續シタキ意嚮ニシテ種々研究中ナルカ根本的原则確立迄ノ便法トシテ個々ノ場合ニ付合理的ナル解決ヲ圖ルコトハ可能ト思考スルモ「モ」ト協議ノ要アルニ付確定的回答ハ明朝ニ致度シト答ヘタルニ付本官ハ然ラハ蘭側ノ合理的解決ヲ期待シ右兩船ニ對シ入港指令ヲ發スル様兎ニ角政府ニ電報スヘシト述ヘ置キタリ

三、「スマラン」ニ入港セル榛名丸ニ對シテハ御來示ノ趣旨

訓令濟ナリ

「スラバヤ」、「メナド」、「メダン」、「マカツサル」へ轉電セリ



634 昭和16年7月31日

豊田外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

日蘭印金融協定の改訂につき提議方訓令

本省 7月31日午後7時40分發

第四三八號(大急、祕)

貴電第六九二號ニ關シ

正金ニテ作成大藏省ト協議ヲ遂ケタルニ付今川ヲシテ左記提案ヲ以テ至急爪哇銀行ト協議セシメラレ結果回電アリ度昭和十五年十二月二十四日附正金銀行及爪哇銀行トノ金融協定第三條ニ於テ兩協定銀行カ盾又ハ圓ノ調達ニ當リ米弗ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シ且ツ同協定第一條ノ規定ニ基ク兩銀行ノ當座預金中一定額ヲ超過スル部分ハ同第七條ニ於テ米弗ヲ以テ支拂請求ヲ爲シ得ル場合ヲ規定シタル處北米合衆國ニ於ケル外國資金凍結令ノ適用範圍益々擴張セラルルニ伴ヒ將來右協定運用上米弗決済ニ支障ヲ來スヘキ

ニ付今後右米弗決済ニ代ヘ新ナル決済方法トシテ金又ハ第三國通貨ニ依ルコトトシ(註此點強ク主張シタシ)現協定ニ對スル追加協定トシテ左ノ通申合セ昭和十六年何月何日ヨリ實施ス

一、決済ニ用ユヘキ金ハ純分千分ノ九百五十以上ノモノトシ其價格ハ純金一「グラム」ニ付何圓何錢又ハ何盾何仙トス

二、前項ノ價格ハ現協定第五條ニ規定スル相場變更ト同時ニ協定銀行合意ノ上改正スルモノトス

三、金塊引渡ノ場所ハ債權者ノ本國首都ニ於ケル債權者ノ營業所トシ引渡ノ時期ハ債務發生後一ヶ月以内トス

四、兩協定銀行ノ合意アル時ハ第三國通貨ヲ以テ右金ノ決済ニ代ヘ得ルモノトス此場合ニハ通貨ノ種類竝ニ其爲替相場共ニ其都度兩協定銀行ノ合意ヲ以テ決定スルモノトス

五、現協定ニ基キ現在正金ノ有スル盾資金又ハ爪哇銀行ノ有スル圓資金ノ内夫々二百萬盾四百五十萬圓ヲ超過スル部分ハ預入銀行ノ要求アル時ハ本追加協定ニ準據シ金又ハ第三國通貨ヲ以テ決済スルモノトス

六、現協定第九條中「第六條ニ記載セル相場」竝ニ「現行協

定對米相場」ハ今後本追加協定第一項ニ規定スル金價格ヲ意味スルモノトス

現協定第十二條(イ)中「第六條ニ規定スル相場」ハ今後本追加協定第一項ノ金價格ヲ意味スルモノトス

635 昭和16年7月31日 豊田外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

船腹予約済み既約貨物の日蘭印間相互搬出許
可に関しバプスト公使へ提案について

付記 昭和十六年七月三十一日

水野(伊太郎)通商局長・在本邦バプストオラ
ンダ公使会談における日本側申入れ要旨

本省 7月31日後9時発

第四三九號(大急、極秘)

一、日、蘭印共ニ資金凍結實施ノ結果發生シタル新通商關係ノ恆久的取極メハ暫ク事態ノ推移ヲ見サレハ決定シ兼ヌルニ付差當リ兩國船舶ノ積荷問題解決ノ爲今三十一日水野通商局長ヨリ「バプスト」公使ニ對シ別電第四一號編注ノ通申入レタル處「パ」モ此ノ如キ方法ニテ當面ノ問題

解決スルコトハ洵ニ喜ハシキコトナリト述ヘタル趣ナルニ付貴官ニ於テモ必要ニ應シ貴地當局ト交渉セラレ度

二、蘭印側ニ於テ我方ノ右提案ニ應スルトスレハ蘭商ノ當該船腹豫約量ハ輸出ヲ許可セラルヘキニ付累次貴電御申越ニ係ル蘭商既契約品問題モ大部分解決スルコトナル次第ナルニ付御承相成度

三、尙同局長ヨリ右會談ニ於テ蘭印政府カ爪哇銀行ニ在ル盾資金ヲ以テ我方ノ買付クヘキ蘭印物資代金トスルコトヲ拒否シ蘭商ノ既契約解除ニ依ル損害補償ニ充當セントスルコトハ承服出來サルトコロニシテ何レ本問題ハ別ニ解決方協議スヘシト告ケタル處「パ」ハ之ヲ諒承シタル趣ナリ

編注 別電第四四一号は見当らないが、七月三十一日の水野通商局長・バプスト公使会談は本文書付記参照。

(付記)

七月三十一日水野通商局長ヨリ「バプスト」公使閣下ニ申入レタル要領左ノ通

蘭領印度政府ニ於テ日本國船舶ノ現在蘭領印度諸港ニ入港中ノモノ及現ニ蘭領印度ニ向ツテ航行中ニシテ來月初旬入港スルモノニ對シ蘭領印度各港ニ於テ此等船舶ニ對シ船腹豫約濟ノ分ニ付テハ總テ積荷ヲ滯リナク許可セラルヘク之ニ對シ相互の措置トシテ日本政府ニ於テハ和蘭國船舶ニシテ現在入港中ノモノ及現ニ日本ニ向ツテ航行中ニシテ來月初旬入港スルモノニ對シ日本國各港ニ於テ此等船舶ニ對シ船腹豫約濟ノ分ニ付テハ總テ積荷ヲ滯リナク許可スルコトカ差當リ採ラルヘキ最善ノ方法ナルヘシト信ス

現在日本外務省ノ承知スル所ニ依レハ日本國船舶及和蘭國船舶ニシテ前記ノ入港及航行中ノモノ左ノ如シ

一、日本國船ノ分

- a、榛名丸 現在「バタヴィヤ」入港中
- b、日蘭丸 八月三日頃「スラバヤ」入港豫定
- c、「チエリボン」丸 八月三日頃「マカッサル」入港豫定
- d、「ビルマ」丸 八月二日頃「マカッサル」入港豫定

(本船ハ同港ニテ玉蜀黍七千屯積込タル上日本へ引返ス)

- e、「エリー」丸 現ニ「バレムバン」入港中

三、和蘭國船ノ分

- a、「チサロア」號現在神戸入港中
 - b、「チサラク」號八月五日頃横濱入港豫定
- 尙日本外務省ハ「チサロア」號ノ蘭領印度向出帆日取カ本三十一日ナルカ故ニ此出帆豫定ノ變更困難ナルニ於テハ八月中旬神戸又ハ横濱へ入港豫定ノ「チマノク」號ニ前記「チサロア」號ニ豫約セル貨物ヲ積込ムコト可能ナルコト
- 茲言明ス

636 昭和16年8月1日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐を受けて対日關係を根本的に再検討するとのホーフストラテン内話について

バタビア 8月1日前発
本省 8月1日前着

第七一三號(館長符號扱、至急)

三十日夜「ホ」休暇ヨリ歸來會見ヲ求メ來レルニ付當官邸ニ於テ二時間ニ互リ會談セルカ内容頗ル重大ニシテ我方ニ於テモ右ニ關聯シ對蘭印根本對策ヲ確立スルコト喫緊事ナ

リト思考ス日蘭會商當時ニ於ケル本官ト「ホ」トノ會談ノ模様ニ依リ既ニ試験濟ミノ通り「ホ」ハ率直ニシテ明快キノ言フ所ハ蘭印政府ノ方針其ノモノト解シ大過無シ依テ左ニ會談要領電報スルニ付篤ト御研究ヲ請フ

「ホ」、日本軍ノ佛印南部進駐ハ蘭印ニ對シ直接ノ脅威ヲ與フルモノニシテ蘭印トシテハ日本ヲ更ニ敵性濃厚ナルモノト認メサルヲ得ス

石、今次佛印進駐ハ國際情勢ニ鑑ミ佛國政府ト合意ノ上協同防衛ヲ爲サントスルニ過キス蘭印ニ對シ何等特殊ノ意圖ヲ有スルモノニアラス

「ホ」、對蘭印意圖無シト言ハルルモ意圖ノ有ル無シニ拘ハラズ佛印ノ南部ニ日本陸海空軍基地カ設立セラレタル限リ蘭側トシテ對日關係ヲ根本的ニ再檢討セサルヲ得ス

石、蘭印ハ自力國防完成セリト豪語セラレ居リ又新聞等ニ於テモ ABCD 協同「フロント」確立シ居ルヲ以テ日本軍來ルモ惧ルルニ足ラスト明言シ居レルニアラスヤ敢テ脅威ヲ感セラルルノ理由無カルヘシ

「ホ」、默シテ答ヘス
石、對日關係ヲ再檢討セサルヘカラスト言ハレタルカ夫レ

ハ何ヲ意味スルヤ

「ホ」、會商中ハ對獨再輸出防止ニ重點ヲ置キタルモ今後ハ日本ノ軍事力ヲ強ムルノ結果トナルヘキ石油其ノ他軍需物資ノ對日供給ハ之ヲ更ニ縮小スルノ已ム無キニ至ルヘク大觀セハ日蘭印貿易ハ從來ノ五分ノ一位ニ減少スルカモ知レス

石、右ハ甚タ不都合千萬ト言フヘキモ蘭側カスル政策ヲ遂行セラルモノトセハ之レ又已ムヲ得サルヘシ日本亦其ノ適當ト信スル方法ニテ是等物資ノ不足ヲ補充スル外無カルヘシ

編注 後日訂正報で本電報末尾に「御見込ニ依リ可然轉電相成度」と追記された。

637

昭和16年8月1日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

既約貨物搬出問題や石油協定の履行に関して
ホーフストラーテンと意見交換について

パタビア 8月1日前発
本省 8月1日前着

第七一四號(館長符號扱、至急)

⁽¹⁾、三十日「ホ」ト會談ノ節本官ヨリ在日蘭商ノ既約品ニ就テハ日本政府ニ於テ解決方考慮中ナリシカ曩ニ蘭側カ打的ニ資金凍結等ノ措置ヲ實施セルハ心外ノ至リナリト述ヘタル處「ホ」ハ代金ノ支拂ヲ完了シ既ニ蘭側ニ所有權ノ移轉セル商品ノ輸出ヲ許スハ國際道義ヨリ見ルモ當然ナリ日本政府カ蘭側再三ノ要請ニ拘ラス何等明確ナル意思表示ヲ爲ササリシハ不都合ナリ抑々本件ハ日本側カ從來通りF O B取引ヲ許容シ居タリシナラハ問題無カリシ筈ナルニ本年二月倉庫渡シ現金拂制度ヲ許容シ蘭側之ニ同意シタルニ拘ラス七月七日日本側ハ支拂濟ミ商品ノ輸出ヲ突如禁止シタル次第ナレハ日本側ノ責任ハ二重ニ大ナリ在日蘭商手持商品(支拂濟ミ、未積出シ)ハ一千二百萬盾(約二千五百萬圓)ニ達シ全損トナラハ彼等ハ致命傷トナル惧レアリ他方蘭印政府トシテハ當地蘭商ノ反對アリシニ拘ラス兩國貿易促進ノ爲倉庫渡シ制度ニ服從セシメタル經緯アルニ鑑ミ萬一ノ場合彼等ノ損害ヲ保障ス

ル爲日本側資金ヲ凍結セル次第ナリト答ヘタリ

⁽²⁾、仍テ本官ヨリ日本側ハ支拂濟商品ノ輸出ヲ禁止セントセシ次第ニアラス何分世界全體ニ對スル最初ノ措置ナルニ付運用方針ニ時間ヲ要セルニ過キス且千二百萬盾ハ蘭商ノ私金ナルニ日本政府ノ爲替基金ヲ報復的ニ凍結スルハ不合理ナルノミナラス更ニ一步ヲ進メテ全面的輸出許可制ヲ敷キタルハ露骨ナル經濟的挑戰ト云フノ外ナシト述ヘタル處「ホ」ハ貴言ノ通り千二百萬盾丈ケノ問題ナラハ比較的簡單ニシテ日本側カ蘭商手持商品ノ積出ヲ許スニ於テハ凍結セル日本側資金千八百萬盾ヲ開放シ砂糖其ノ他ノ買付及對日輸出ヲ許可シ差支ナキモ問題ハ一層深刻ニシテ蘭側ハ日本ノ佛印南部進駐ニ依リ直接脅威ヲ受クルニ至レルヲ以テ非常警戒態勢ヲ取ル要アリトノ見地ヨリ全面的許可制ヲ敷キタル次第ニテ今後ハ石油其ノ他軍需物資ノ輸出ハ相當壓縮スルノ外ナカルヘシト答ヘタリ

三、右ニ對シ本官ハ「ス」局長代理ハ石油協定ヲ破棄セシムル意思ナキ旨言明セル處貴言ノ趣旨ト矛盾スルニアラスヤト質セル處「ホ」ハ協定ハ民間ノ契約ナレハ政府トシ

テ其ノ破棄ヲ云々スル要ナシトノ意ニシテ協定カ存續スル場合ニ於テモ右カ今次許可制ノ適用ヲ受クルハ當然ニシテ政府トシテハ契約全量ノ輸出ヲ許可スル意嚮ナク如何ナル程度ニ許可スルヤハ追テ檢討ノ手筈ナリト答ヘタリ

御見込ニ依リ可然轉電アリタシ



638

昭和16年8月1日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蘭印在留邦人の指導方針につき意見具申

バタビア 8月1日前発

本省 8月1日前着

第七一五號(至急、外機密、館長符號扱)

往電第七一三號ニ關シ

一、「ホ」トノ會談中本官ノ得タル印象ニ依レハ我方カ佛印ニ進駐シ居ル限りハ蘭側ハ日本ヲ以テ純然タル敵國ト看做シ英米トノ協同ヲ強化シ日本ノ南進ヲ阻止スヘク凡ユル措置ヲ講スヘキコト最早疑ノ餘地ナシ仍テ帝國政府トシテハ逡巡スルコトナク之カ對抗策ヲ講セラルルコト絶

對ニ必要ニシテ一日遅ケレハ夫レ丈ケ不利ヲ蒙ルヘシ乍併佛印ニ進駐早々同地ニ於ケル我準備ヲ完了セサルニ早マリテ蘭側ニ刺戟ヲ與フルコトハ不得策ナルニ付本邦ニ於ケル犬ノ空吠ニ等シキ「プレスキヤンペーン」ハ絶対ニ避クル様御取計アリタシ

二、本官トシテハ今次凍結令ノ善後措置ニ付テハ表面ニ立ツヲ避ケ正金今川ヲシテ管理局及爪哇銀行側ト交渉セシメ居ル次第ニシテ兩者間ニ於テ日蘭双方ニトリ満足ナル具體的解決試案ヲ成立シ得レハ蘭側ノ希望アラハ日本政府ニ右ニテ解決方斡旋ノ勞ヲ取ルヘシトノ態度ニ出テ居ル次第ナリ今日迄ノ當地狀況ハ凍結令ヲ施行シタルモノノ蘭側トシテモ多大ノ不便ヲ感シ居リ現ニ三十一日爪哇銀行總裁ヨリ今川ニ對シ在日蘭商ノ困難ヲ訴ヘ五十萬圓借用方ヲ申出テ來レル有様ナリ(今川ヨリ頭取ニ打電濟)從テ凍結令ノ善後措置ハ我方ニ於テ泰然タル態度ヲ維持スル限り何トカナルヘシト思考ス

三、然レトモ日蘭印關係ノ大勢ハ冒頭往電ノ通りニシテ兩國間ノ貿易ハ益々窮屈トナリ在留邦人ノ相當部分ハ營業不可能トナルコト明白ナルノミナラス帝國トシテモ物資ノ

關係上蘭印ニ對シ思切ツタル措置ヲ執ラサルヲ得サルノ
狀況ニ追ヒ込マルルコト自然ノ勢ナリト思考ス

四、事情右ノ如クナルニ付本官トシテハ速ニ左ノ方針ヲ以テ
在留民ヲ指導スルコトト致度シ

(イ)各地日會長ヲ召集シ今日迄ハ在留邦人ノ引揚ヲ極力慰

撫シ來リタルモ諸般ノ情勢ハ今直ニ戰爭勃發ノ如キコ

トハナキモ在留邦人ノ營業ハ益々困難トナル可能性アリ
從テ各自慎重考慮ノ上現在營業困難ニシテヨリ以上

ノ困難ヲ乘切り得ル自信ナキモノハ寧ロ店舗ヲ整理シ
テ引揚クルコト賢明ナルヘク營業ノ基礎相當鞏固ニシ

テ或程度頑張り得ルモノハ當分居残り營業ヲ繼續シツ
ツ情勢ヲ看守ルコト賢明ナルヘキ旨ヲ言渡スコト

(ロ)今後ノ努力ニ拘ラス日蘭印關係打開ノ餘地ナク惡化ノ
一途ヲ辿ルコト明白トナル場合ハ遲キニ及ヒ周章狼狽

引揚ケシムルノ醜態ヲ演セシメサル様本官ヨリ早キニ
及ヒテ積極的ニ引揚ヲ勸告スルコト(本官トシテハ今

日迄在蘭印邦人ハ最後迄在留セシムルコト必要ナリト
考ヘ居タリシカ當領政府ノ最近ノ傾向ヨリ察スレハ國

交斷絶ヲ決意スル瞬間一網打盡的ニ總テノ在留民ヲ監

禁スルコト確實ナリ斯クテハ當地ノ事情ニ馴レ馬來語
ヲ操リ居ル人的資源ヲ敵手ニ押ヘラルル譯ニシテ甚タ

不利ナリト思考ス寧ロ早キニ及ンテ之ヲ本邦ニ返ヘシ
其ノ名簿及住所録ヲ御作成相成置キ萬一二對蘭武力行

使ノ如キ必要ニ迫ラレル場合ハ是等ノ人物ヲ軍ニ於テ
利用セラルルコト有效ナリト思考ス)

五、在留邦人ハ現在ニ於テサヘ日蘭關係ノ將來ニ甚シク不安
ノ念ヲ抱キ居ル次第ニシテ本邦船ノ寄航停止セラルルニ

於テハ直チニ動搖シ本官ニ於テ如何ニ努力スルモ收容シ
得サルコトトナルヘキニ付本邦船ノ寄航ハ當分是非トモ

御繼續相成様致度シ
六、各地在留邦人ヨリ其ノ去就ニ關シ本官ノ責任アル意見ヲ
陸續求メ來リ居レル處差當リテハ之ヲ慰留シ居ルモ彼等

ノ大勢ハ急遽引揚ノ方向ニ傾キツツアリ就テハ一定ノ方
針ヲ以テ今ヨリ之ヲ可然指導シ隨時引揚シムル方賢明ナ

リト思考ス
七、仍テ至急御詮議ノ上一週間位ノ中ニ右諸點ニ關シ大體ノ

御意嚮御回電相煩度シ

639

昭和16年8月1日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蘭印におけるわが方ギルダ―資金総額報告

バタビア 8月1日後発

本 省 8月1日夜着

第七一九號(至急)

貴電第四三〇號ノ一二關シ(爪哇銀行ニ於ケル盾資金蓄積
高調査ノ件)

總額三千五十萬盾ニシテ内譯左ノ如シ

一、爪哇銀行ニ關スル正金銀行ノA勘定殘高一千八百三十萬
盾

一、本邦銀行ノ爪哇銀行ニ於ケル預託金殘高竝ニ現金手持在
高三百萬盾

一、取立輸入手形殘高六百四十萬盾

一、當座貸越爲替前貸其ノ他貸付金殘高二百八十萬盾

一、和蘭銀行ニ於ケル本邦人預金、不明



640

昭和16年8月1日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蘭印の対日輸出制限への對抗策具申

バタビア 8月1日後発

本 省 8月2日前着

第七二八號

蘭側ハ今後對日物資輸出制限ヲ強化スヘキハ最早疑ノ餘地
ナキ所ナレハ我方ニ於テモ對抗策ノ一トシテ佛印及「タ
イ」ヨリ米、鹽魚等ヲ蘭印ニ輸出セシメサル様工夫スルコ
ト必要ニシテ右ハ蘭印ニ相當ノ打撃トナルヘシ特ニ「タ
イ」佛印ヲ併セ蘭印向年額一千萬盾以上ニ達スル鹽魚ノ如
キハ當領土民ノ必需食糧ニシテ之カ供給停止ハ甚大ナル社
會問題ヲ惹起セシメ得ヘシ

尙是等ノ手段遂行ニ當リテハ兩國ノ蘭印向輸出貿易特ニ鹽
魚輸出ノ如キ其ノ大半カ新嘉坡經由行ハレ居ル事實ニ留意
ヲ要スルコト勿論ナリ右至急御研究ノ上結果御回電アリタ
シ

「タイ」、河内、新嘉坡へ轉電シ「スラバヤ」へ轉報セリ



641

昭和16年8月3日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

米國の對日石油禁輸措置に關する蘭印紙論說
報告

第七三七號

バタビア 8月3日後發
本省 8月3日夜着

米國ノ石油輸出禁止措置ニ關スル二日爪哇「ボーデ」紙論
調左ノ如シ

對日經濟壓迫ニハ生活必需品、軍需品ノ供給停止等多々方
法アルモ佛印ヲ押ヘタル日本ニ對シテハ護謨、錫等輸出禁
止ハ何等意味無ク最モ簡單ニシテ有效ナルハ石油輸出禁止
措置ニ外ナラス日本ハ已ニ大量ノ石油ヲ買附ケタリト雖モ
大半ハ日支事變遂行ノ爲消耗シ居ル現狀ナレハ米蘭協力シ
一齊ニ之ヲ輸出ヲ停止セハ日本ノ蒙ムルヘキ困窮此ノ上モ
無シ日本ハ屢々米國カ石油供給ヲ停止セハ已ムナク他地域
ニ之ヲ求ムヘシト聲明シ居リタル處蘭印ニ於テ已ニ石油鑛
區破壊ノ準備ナレル今日「ボルネオ」ヨリハ一滴ノ石油モ
獲得シ得サルヘシ日本ニシテ右ノ事實ヲ諒察セハ聽テハ今
後ノ侵略行爲ニ手加減ヲ加フルコトトナルハ想像ニ難カラ
ス吾人ハ對日石油輸出禁止カ太平洋ノ緊張ヲ解クニ最モ效

果アルモノト信シテ疑ハス今次米國ノ禁止措置ハ或ハ日本
ヲシテ「ボルネオ」攻略ノ舉ニ出テシムヘキコトアラムモ
其場合米國ハ蘭印ニ對シ單ニ軍需品ノ供給ヲ増大スルニ止
ラス必スヤ當領ニ向ケ其艦隊ヲ派遣スルコトトナルヘシ
米、「オーストラリア」、新嘉坡、馬尼刺ヘ轉電セリ
~~~~~

642

昭和16年8月6日

豊田外務大臣より  
在バタビア石沢総領事宛(電報)

凍結資金を解除し蘭印物資の買付代金とする  
案を蘭側へ提示方訓令

本省 8月6日後8時25分發

第四五六號(大急、極秘)

大藏省及正金側ニ於テハ金融協定ノ存續ヲ切望シ居ルニ付  
A勘定ヲ其儘「フリー」トスル建前ニテ左記四點ヲ基礎ト  
シ今川ヲシテ蘭印側ニ提案折衝セシメ度

然ルニ蘭印側ニ於テハ既ニCentral a/c Japan Tradeヲ新  
設シタル手前モアリA勘定ニ引戻スコトハ至難カト存セラ  
ル就テハ先方ニ於テ強イテ反對スル場合ハ右新設口座ニテ  
モ已ムヲ得スト思考セラルルニ付其邊貴官ノ御裁量ニテ讓

歩セラレ差支ナシ

一、往電第四三九號申進ノ船腹豫約濟ノ分ハ解決セルモ右以外二日、蘭商社ノ契約物(八月一日以前二限ル)モ此際片付ケ度ニ付「既約品ハ双方共實行スルコト」

二、「フリー、ギルダール」アリトシテモ蘭印側ニテ物資ノ對日輸出ヲ許可セサル以上何等ノ效果ナク又之ト同時ニ蘭

印側希望品ノミヲ買付クルコト無意義ナルニ付「蘭側ノ六月六日提出セル最後回答ニ掲載ノ諸物資中玉蜀黍、

「コプラ」、「カツサバ、ルート」、「パーム」油、「タンニン」材、砂糖、護謨、錫、「ボーキサイト」、「ニッケル」

鑛、滿俺鑛、工業鹽、「ヒマシ」、規那皮、「キニーネ」、石油、黃麻、屑鐵、「ピッチ、コークス」、糖蜜、「サイザル」等ニ付先方提案數量買付代金ニ支拂ヒ得ルコト

(石油代金ニ對スル盾拂ニ關シ目下東京ニ於テ三井ト「ラ」「ス」兩社代表トノ間ニ交渉中ニ付其結果追電ス)

三、右「A勘定皆無トナレハ其後ハ石油ヲ含メ一對一ノ「バスター」取引トスルコト」

四、今川發正金宛電報(八月二日發)ノ(九)「圓爲替「カバール」ノ件蘭印側申出ノ通ニテ差支ナシ」

(一)前記二ノ確保不可能ノ場合ハ一ノ實行出來サルコトナル次第二ニテ本件解決ノ關鍵ナルニ付之ニ付テハ貴官ニ於テモ御盡力相成様致度

(二)我方今後ノ配船ハ本件交渉ト睨ミ合セ決定致度ニ付交渉情勢ハ隨時御電報相成度

~~~~~

643 昭和16年8月8日 在バタビア石沢總領事より
豊田外務大臣宛(電報)

凍結資金解除問題に関する蘭印当局との会谈
要旨報告

バタビア 8月8日前發
本省 8月8日前着

第七六五號(外機密、大至急)

一、爲替問題ヲ中心トスル今川及「クレナー」管理局長間話合ハ結局貿易、企業其ノ他日蘭印經濟關係ノ全般ニ關聯スル點多キニ付「ホ」局長及小谷同席懇談セシムルコト有益ナリト認メ右様取計ヒ本七日午前午後三時間餘リニ亘リ行ハシメタル會談結果要領(正金電御參照)左ノ通り

(イ)凍結解除ニ關シ「ホ」ハ蘭商損失補填引當額以外ヲ解

除シ右ヲ蘭印物資買付ケニ充當スルコトニ同意スルハ勿論萬一物資買付ケノミヲ以テ清算スルコト不可能ノ場合ハ其ノ他ノ方法(詳細ハ今後ノ協議ニ讓ルモ「バート」又ハ上海弗ニテ清算スル方法モ研究スヘシト云ヘリ)ヲ以テ清算スル用意アル旨竝ニ上記損失補填額ヲモ漸次凍結解除ノ用意アル旨正式ニ言明セリ

(ロ) 蘭印物資ノ買付ケ可能量ニ關シ「ホ」ハ出來得ル限り速ニ態度ヲ決定シ將來日本側ニ通知スヘキニ付日本政府ニ於テ右ト睨ミ合セ今後如何ナル程度迄日本商品ノ對蘭印輸出ヲ許可セラルル用意アリヤ詳細承知致度シト述ヘタリ(此ノ點迅速ニ御決定相成度シ)

(ハ) 在日蘭商ノ取引キニ關シ蘭側ハ既契約高一億八千萬圓、右ノ内支拂濟金額ハ凍結令發布當時ハ一千五百萬乃至二千五百萬ノ見積リナリシ處「ペンニク」總領事ヨリノ電報ニ依レハ右ノ内目下蘭商手持ノ支拂濟且ツ船積ミ未了高ハ三百萬圓ニ達スル旨説明セリ(是等ノ數字ニ付テハ正金ヨリ今川ヘノ電報ト喰違ヒ甚キキヲ以テ蘭側ノ調査方依頼シ置キタルモ政府ニ於カレテモ再應至急御調査ノ上結果御回電ヲ請フ)

(二) 石油ニ關シ日本「ライジングサン」カB P Mニ支拂ヲ要スル金額目下百五十萬乃至二百萬米弗アル處右ハ當地凍結日本資金ヲ清算スル一材料トシテ取扱ヘキ旨蘭側ヨリ説明アリタリ

(ホ) 當地正金ノB P Mニ對スル石油代金新規支拂ニ關シ爲替局ハ之ヲ許可セサリシ處本日ノ會談ニ依リ許可ニ決定セリ

(ハ) 正金ノ業務ハ正金電ノ通り頗ル阻害セラルル形勢アリシ處蘭側ハ當地支店手持資金(B勘定)ヲ以テ輸出業者ニ對スル前貸其ノ他ノ領内金融ヲ許可シ輸出前貸ニ付テハA勘定ヨリ三百萬盾ヲ解除シテ新ニ正金ノ爲D勘定ヲ作り右D勘定ヨリ前貸金額ヲA勘定ニ振り込ミ以テ營業繼續ヲ可能ナラシムルコトニ同意セリ

(ト) Japan Trade 勘定ニ付テハ今後ノ話合ニ依リ其ノ運用方法ヲ協議ノ豫定

(テ) 爲替相場ニ關シ蘭側ハ大體從來通リトスルコトニ内諾セルカ詳細ハ八日決定ノ手筈ナリ

(リ) 爲替協定復活ニ關シ蘭側ハ舊協定ニ代ルヘキ何等カノ取極ヲ成立セシムルコトニ今後協力ノ用意アル旨言明

セリ

三、右ニ依リ明カナル如ク懸案解決ニ付テハ蘭側モ相當誠意ヲ示シ來レルニ付在本邦蘭側銀行及蘭商ノ營業繼續ニ必要ナル許可及便宜ハ出來得ル限り好意的ニ御取計相成ル様致度シ

三、本日貴電第四五六號接到セル處右ニ付テハ研究ノ上卑見追電スヘシ

644

昭和16年8月8日

豊田外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

在本邦蘭商の代金支払い済み滞貨に関し蘭側が指摘した総額には誤りがある旨通報

本省 8月8日後6時0分発

第四六六號(大急、極秘)

貴電第七一四號ノ一二關シ

「ホ」カ在本邦蘭商手持商品(支拂濟ミ、未積出シ)ハ一千二百萬盾(約二千五百萬圓)ニ上リ居ル旨申タル趣ノ處昨日午後「ド、ロース」神戸ノJ社支配人及蘭商同伴本省係官來訪往電第四三九及四四一號ニ關スル蘭船積荷問題ニ付

具体的打合セノ際蘭商ノ代金支拂濟ミ手持商品ハ約二千屯價格二百五十萬乃至三百萬圓ニシテ從テ(イ)「チサロア」ノ積殘シ(ロ)「チサラク」豫約及(ハ)「チマノク」豫約分ノ數量一萬二千屯位トナル處其商品ハ大体買約濟ナルモ代金未拂ニシテ其價格約一千七、八百萬圓トナル次第ナルカ此代金ヲ爪哇ヨリ送金シ得ヘキヤト質シタル趣ナリ

仍テ同係官ハ本件ハ重大ニシテ即答シ兼ヌルカ實ハ「ホ」カ石澤總領事ニ對シ蘭商ニ於テ一千二百萬盾ノ支拂ヲ爲シタル商品ヲ日本政府カ輸出禁止スルコトハ不都合ナリト語リタル由ナルカ唯今ノコトハ甚意外トスルトコロナリト告ケ且七月七日ノ我輸出統制令ハ決シテ蘭印目標ニ非ス專ラ我方原料資材ト圓域内需要關係トヲ睨ミ合セ輸出可能量ヲ決定セントスル大方針ニ基キタルモノナルニ此點ヲ聞キ質スコトナク徒ラニ關西方面ノ小商人ノ流言ニ惑ハサレ其儘蘭印政府ニ誤報シ然モ商人トシテ有間敷誤算ヲ政府ニ報告セラレタルコトハ遺憾ナリトタシナメ置タル趣ナリ

尙本件ハ今八日關係省ト協議ノ上我方針追電スヘキモ不取敢

昭和16年8月19日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日本軍の南部仏印進駐が蘭印政府の対日石油

政策の根本的变化をもたらしたとのホーフス

トラーターテン内話について

バタビア 8月19日後発

本省 8月20日前着

第八五二號(外機密、大至急)

BOMノ試掘契約調印拒絶竝「キヨウ」丸及「テイヨウ」

丸ノ石油積取不許可ニ關シ關係業者ヨリモ報告ニ接シタル

ニ付蘭印政府ノ眞意ヲ確ムル爲十九日「ホ」局長ヲ往訪

一、先ツ本官ヨリBOM「コンセツシヨン」問題ハ會商ノ重

要議題トシテ論議ヲ盡シタル結果漸ク解決セル次第ナル

ニ豫告モナク突如調印ヲ拒絶セル理由如何ト詰問セル處

「ホ」ハ會商打切當時ノ了解力事態ニ重大ナル變化ナキ

コトヲ條件トシテ相互ニ約セルコトヲ實行スル建前ナリ

シハ御承知ノ通ナル處日本軍ノ佛印南部進駐ハ縷説ノ通

蘭印ヲ直接ニ脅威シ兩國關係ノ根本的變化ヲ齎シタル次

第二シテ蘭側トシテハ日本カ今後佛印ヲ(一語不明)蘭印

ヲ攻撃スル意思ナキコトカ日本側ノ説明ノミナラス實際ノ行動ニ依リ分明セサル限り新ナル「コンセツシヨン」等ハ下附シ難シトノ態度ヲ執ルモノナリ從テBOMノ契約ハ之ヲ破棄スト云フニハ非サルモ當分調印ヲ見送ラン

トスルモノナリト答ヘタルニ付本官ヨリ實際ノ行動トハ何ヲ指スヤト反問セル處「ホ」ハ例ヘハ佛印南部ヨリノ撤兵ナリト答ヘタルニ付本官ハ佛印進駐カ英米ノ策動防止竝兩國ノ全面的及蘭ノ部分的經濟封鎖ニ對スル自衛ノ必要上已ムナク行ハレタルモノニシテ撤兵ノ不可能ナルコト竝蘭側カ猜疑心ノ爲ニ對日經濟制裁措置ヲ執ルコトノ危険性ヲ強調セルモ「ホ」ハ納得ノ色ヲ示サス

二、次ニ「タンカー」ニ關シBPMノ crude c 及「クロニア」ノ crude oil 輸出不許可ハ二隻ノミニ對スル決定ナリヤ又ハ今後右二品種ハ絕對ニ對日輸出ヲ許可セサルコトヲ意味スルヤト質セル處「ホ」ハ右ハ二隻ニ對スル決定ナリト答ヘタルニ付然ラハ將來ニ對スル根本方針如何ト反問セル處「ホ」ハ蘭印政府トシテハ「コンセツシヨン」問題ト同様佛印占據後ノ日本ノ對蘭印態度判明セサル限り石油ノ對日輸出ハ日本ノ戰鬪力増大ニ資スルコト

ナキ品種ニ限定セントスル意嚮ナルカ右品種ニ付テハ専門技術家等ノ意見區々ナル爲未タ確定セサル次第ナリト答ヘタリ

三、右會談ニ依リ本官ノ得タル印象ニ依レハ蘭印ハ我軍ノ佛印占據繼續スル限り軍需物資ニ關シ六月六日ノ覺書ヲ實行スル意思絶對ニナク石油ノ對日輸出許可量モ極ク少量トナリ到底我方ノ期待ニ副ハサルヘキコト明瞭ニシテ右態度ハ單ナル交渉ニ依リ改善セシムルコト到底不可能ト思考セラル

646 昭和16年8月23日 豊田外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

鉦區提供拒否など蘭印政府の対日石油政策に
対しバプスト公使へ抗議申入れについて

別電 昭和十六年八月二十三日發豊田外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛第五一五号
右抗議要旨

本省 8月23日後9時發

第五一四號(大急、極秘)

貴電第八五二號ニ關シ

蘭印政府ハ買油契約及鑛區ニ關スル蘭側累次ノ言明ヲ無視シ然モ「ホ」カ皇軍ノ佛印撤兵ヲ云々シタルカ如キハ帝國ノ名譽問題ニ觸レ到底捨テ置キ難キコトナルニ付本件ハ東京ニ於テモ取上クル必要ヲ認メ今二十三日「バ」公使ヲ招致シ次官ヨリ別電第五一五號要領ノ通申入レヲ爲シ置キタルニ付御承知相成度

(別電)

本省 8月23日後8時發

第五一五號(大急、秘)

次官ヨリ買油契約及鑛區ヲ日本石油業者ノ開發ニ提供スヘシトノ蘭印側ノ言明アリタル經緯ヲ明カニシ今回突如蘭印側カ皇軍ノ佛印進駐ニ依リ脅威ヲ感ストノ理由ヲ以テ買油條件ヲ勝手ニ變更セントスルト共ニ鑛區提供ヲ拒否シタルコトノ不都合ヲ詰リ且最近蘭印當局ノ態度ニ諒解シ得サルモノ多ク爲ニ我朝野ノ感情ヲ刺戟シ居ル事情ヲ述ヘタル處「バ」ハ御申入ノ次第善ク諒解セリ唯自分ノ思付ナルカ此際日本政府ヨリ和蘭政府ニ對シ佛印ヨリ蘭印ニ攻撃ヲ加フ

ル意嚮ナキコトノ保障ヲ與ヘラレ更ニ其主旨ヲ發表セラルレハ本問題ノ解決ヲ速進スヘシト申出タルニ付次官ハ我軍ノ佛印進駐ハ専ラ防禦的措置ニシテ第三國攻撃ノ爲ニ非ス此點ハ本官ノ言トシテ貴國政府ニ報告セラレ差支ナク以テ安心ヲ與ヘ我方申入レ通至急承諾セラルル様貴公使ノ努力ヲ煩シ度ト押シタルカ「バ」ハ右早速取次クヘキ旨答ヘタリ

647 昭和16年8月24日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

三国同盟と南部仏印進駐が蘭側対日態度を硬
化させており対蘭印政策およびわが方燃料政
策を刷新すべき旨意見具申

バタビア 8月24日午後
本 省 8月25日前着

第八七四號(大至急、外機密、館長符號扱)

貴電第五一四號ニ關シ

軍需物資ノ對日輸出問題ニ關スル蘭印政府ノ方針ハ先般ノ
日蘭會商當時ヨリ屢々報告致シ置キタル通りナル處我軍ノ

佛印進駐後ハ右方針ハ更ニ硬化セラレタル模様ナルニ付本
官トシテハ其ノ程度ヲ見極メ置クコト必要ナリト認メ最近
三週間内ニ於テ好機會ヲ捉ヘ「ホ」通商局長「ロ」東亞局
長及副總督「スピット」ト夫々數時間ニ亘リ日蘭國交ノ大
局ニ關シ意見ヲ交換シタルカ彼等カ不退轉ノ熱意ヲ以テ強
調セル點ニシテ符合ヲ合スルカ如ク一致セル處要領左ノ如
シ

一、(イ)蘭人ノ獨逸ニ對スル感情ハ之ヲ敵ト呼フ位ニテハ不充
分ニシテ惡魔國ト呼ハント欲ス日本ニ對シテハ特ニ憎
惡ヲ有セサルモ日本カ此ノ惡魔ト同盟シ同盟ヲ基礎ト
シテ其ノ政策ヲ執行シツツアル限り日蘭印國交改善ノ
餘地ナシ

(ロ)日本側カ何ト説明セラルルトモ日本軍ノ佛印南部進駐
ハ蘭印ニ對スル直接ノ脅威ニシテ近キ將來日本カ蘭印
攻略ヲ企圖シ居ルモノト見ルノ外ナシ

(ハ)蘭印ニ對スル脅威ハ即チ英米ニ對スル脅威ニシテ此ノ
點ハ英米ニ於テモ同様ニ感シ居レリ

依テ蘭印ハ英米ニ指圖サルモノニハアラサルモ日本
カ佛印南部ニ軍事基地ヲ有スル限り蘭印ノ對日政策カ

今後英米ノ夫レト併行スヘキハ自然ニシテ敢テ彼等ト協定ヲ締結スルノ要ナシ

(二)從テ日本ノ武力ヲ強化スル結果トナルカ如キ物資ヲ日本ニ供給スルコトハ絶對ニ不可能ナリ

(ホ)要スルニ日本カ三國同盟ヲ脱退シテ中立ヲ守ルト共ニ佛印南部ヨリ其ノ陸空海軍ヲ撤退スルコトトナラサル限リ日蘭印ノ關係ヲ改善スルノ途ナシ

三、右ニ對シ本官ハ蘭印要路者ノ見解斯ノ如シトセハ自分ハ兩國々交ノ改善ニ盡サントノ一念ヨリ遙々再度當地ニ赴任セル次第ナルモ最早如何トモ爲ス能ハス日本ノ政策カ三國同盟ヲ基礎トスルモノナルコト竝ニ防衛的措置トシテ佛印南部ニ駐兵スルコトハ決定的ニシテ變更セラルヘキモノニアラサル旨ヲ政府御聲明及第電示^{前カ}ノ趣旨ヲ體シ説明且強調シ置キタルカ三者共之ヲ首肯セス前記會談ハ何レモ個人ノ資格ニ於テ行ヒタルモノナルモ三者ノ言フ所ハ蘭印政府ノ決定的政策ト見テ誤ナシ從テ今後當領政府ノ執ルヘキ對日措置ハ緩急自ラ順序アランモ總テ前記根本觀念ヨリ出發スルモノト覺悟セサルヘカラス

三、次官ヨリ冒頭貴電ノ通り「パ」公使ニ申入レラレタルコ

トハ御尤モノ儀乍ラ「パ」ハ蘭印ヲ離ルルコト既ニ長ク歐洲戰後ニ於ケル當領ノ空氣ヲ體驗シ居ラサルヲ以テ其ノ思付トシテ提案セル保障ノ如キハ當領政府トシテハ最早問題トセサルコト明瞭ナリ

當政府カ對日物資輸出(石油ヲ含ム)ニ對スル根本方針ヲ決定ノ上近ク之ヲ本官ニ通告スヘシト申シ居レルコト既ニ御報告ノ通りナルカ其ノ内容カ我ニ甚タシク不満足ナルヘキコトハ推察ニ難カラサルノミナラス之ニ對シ如何ニ交渉スルモ蘭側ノ肚ハ既ニ定リ居ルカ故ニ埒明カサルコトモ亦疑フ餘地ナシ就テハ帝國政府ニ於カレテモ蘭側ニ對スル期待ヲ潔ク放棄セラレ新シキ觀點ヨリ對蘭印政策延イテハ我カ燃料政策ヲ確立セラルルコト緊喫事ナリト思考ス

尙「パ」ニ對シテハ今後本件ニ關シ御交渉ノ際前記三者ノ談ヲ引用セラレサル様特ニ御配慮アリタシ

648

昭和16年8月29日

石黒(武重)商工省貿易局長官より
水野通商局長宛

貿易統制令施行規則の対蘭印運用を緩和した
ことに見合うよう蘭印側に対日輸出改善を交

訪要請

一六貿一第一二〇九五號

(8月30日接受)

昭和十六年八月二十九日

貿易局長官 石黒 武重 (印)

外務省通商局長 水野 伊太郎殿

貿易統制令施行規則ノ運用ニ關スル件

今般七月末ノ日蘭間交換覺書ノ履行ニ關シ別紙(見當ラズ)寫ノ通關係調整機關ニ對シ及通牒置候處右通牒ニ依リ現行貿易統制令ノ適用ヲ左記ノ通蘭印側ニ比シ著シク緩和シタルハ蘭印産必需物資確保ノ見地ヨリ措置シタルモノニ有之二付テハ其趣旨ヲ蘭印側ニ克ク諒解セシメ蘭印側ノ資金凍結令乃至貿易許可制ノ運用ニ付テモ本邦側ノ趣旨ニ副ハシムル様極力交渉方御取計相成度此段及申進候也

記

今次ノ措置ニ於テ本邦側ハ

(一) 資産凍結令發令以前ニ蘭印向輸出ヲ許可シタルモノハ船積豫約アルモノニシテ支拂濟ノモノニ付テハ從前通りノ

内容ニ於テ再許可ヲ爲シ

(二) 船積豫約アルモノガ右許可數量ヲ超ユルモノ(例之綿糸

布ノ如キ右許可數量ハ全部既ニ積出濟ニシテ殘量無シ)ニ對シテモ支拂濟ノモノニ付テハ在留蘭商ノ積荷ニ限り特別許可ヲ爲シ

(三) 在留蘭商ノ支拂濟商品全般ニ互リ特別考慮ヲ拂ヒ

(四) 在留蘭商ノ支拂濟商品明細表ガ外務省ヲ通ジ八月二十七

日入手シタル處之ヲ各調整機關別ニ關係商品ヲ分類整理

シ八月二十九日之ヲ各調整機關ニ迅速ニ送付シタリ

然ルニ蘭印側ノ從來ノ措置振ヲ見ルニ

(一) 資金凍結令發令以前ニ日本向輸出ヲ許可シタルモノヲ全

部取消シ船積豫約アルモノニ對シテノ再許可ハ我必需物

資ニ付テハ前許可數量ノ一部ニ止マリ

(二) 其ノ再許可數量ハ從前ノ月別許可數量ヲ超ユルモノ無ク

(三) 在蘭印邦商ノ支拂濟商品全部ノ對日積出ニ付テハ未ダ何

等ノ措置ヲ講ズルコトナク

(四) 對日輸出ニ關スル各種ノ措置モ我必需物資ニ關スル限り

甚ダ迅速ヲ缺キ居ルモノト認メラル



649

昭和十六年9月2日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蘭印におけるわが方華僑工作の現状報告

バタビア 9月2日後發

本省 9月3日前着

第九〇二號(館長符號扱)

本多大使發合第二六一號前段二關シ

一、我軍ノ佛印進駐ヲ契機トシ當領政府ノ對日感情ハ極度ニ惡化スルト共ニ重慶支援ノ態度益々露骨トナレル次第ハ當領支那紙ノ抗日論調ニ對スル取締ノ不徹底、華僑ニ依ル重慶空軍建設基金公募ノ許容、邦人經營ノ東印度日報漢字版及馬來語雜誌「シナルスラタン」ニ對スル停刊處分等ニ依リテモ充分之ヲ察知シ得ル次第ナルカ他面政府當局ハ最近華僑一部ノ對日感情稍改善セラレ我方ニ接近シ來ル者少數乍ラ漸次増加ノ傾向アルヲ感知スルヤ華僑ト接觸多キ邦人ハ容赦無ク追放スルト共ニ是等華僑ヲ警察ニ召喚訊問シ或ハ當館華僑係官ノ許ニ人ヲ派シ其ノ身邊ノ危險ナル旨ヲ密告セシムル等當方華僑工作妨害ヲ強化シ始メタリ

二、仍テ本官ハ最近好機會アリタルニ付支那人問題ニ關スル政府側總元締タル「ロ」東亞局長ト日支事變ニ關シ大局

論ヲ戰ハシタルカ其ノ間「ロ」ノ強調セル點ハ當領ニ對スル華僑工作上參考トナル點多ク要領左ノ通り

(イ) 自分ハ永年支那ニ在勤シ又蘭印ニ歸來シ十年ニ亘リ終始支那及支那人問題ヲ取扱ヒ來リ充分支那ヲ承知シ居ル積リナルカ日本カ南京政權ヲ守リ立テ蔣政權ヲ打倒セントスルモ到底成功ノ見込ナカルヘシ眞ニ支那大衆ヲ率キルモノハ蔣政權ニシテ二流以下ノ人物ヨリ成レル南京政府ハ到底支那大衆ヲ率ウルコト能ハス從テ事變解決ノ唯一ノ途ハ日本カ「ギブアンドテイク」ノ方針ニ依リ蔣介石ト妥協スル外ナシト確信ス

(ロ) 蘭印華僑ニシテ南京政府ヲ支持スル者殆トナシト云フモ過言ニアラス其ノ總テハ蔣介石ヲ支持シ居レリ又和蘭政府カ蔣政權ヲ認メ南京政權ヲ認メサル所以ハ全ク右ト同様ノ確信ニ基クモノナリ

(ハ) 南京政府首班タル汪精衛ハ亞細亞主義ニ立脚シ日支和平ヲ説クモノニシテ其ノ思想ノ根底ハ白人排撃ニ在リ蘭印政府トシテ之ニ反對スルハ當然ニシテ斯ル主張カ當領華僑ニ説カルルコトハ斷乎阻止スル方針ナリ
目下當領ハ戒嚴令ヲ布キ凡テヲ戰時體制ト爲シ國民一

致シテ和蘭本國回復ノ爲戰ヒ居レリ領内華僑百五十萬人ハ蘭印社會ノ重要ナル部分ヲ占メルモノニシテ之カ動搖ハ治安及經濟生活ニ重大ナル影響アリ從テ外國ヨリ行ハルル對華僑政治工作ハ徹底的ニ彈壓スル方針ナリ

三、右ニ對シ本官ハ凡ユル角度ヨリ論駁ヲ加ヘタルカ「ロ」ハ仲々以テ首肯セス自說ヲ固執セリ事情右ノ如クナルノミナラス最近ニ於ケル當領警察力ノ充實ハ我方華僑工作ヲ極度ニ困難ナラシメ居リ積極的ニハ殆ト手ノ出シ様ナキ有様トナレリ從テ我方トシテハ先ツ言論機關及工作關係者ニ對シ暫ク隱忍セシムルコトトシ現在ハ主トシテ華僑ノ動向其ノ他ニ關スル情報蒐集ノ爲働カシメ居レリ四、仍テ此處當分ハ佛印、「タイ」等我カ勢力範圍内華僑ニ對スル工作ヲ強化シ間接ニ當領華僑ニ響カセルト共ニ南京政府ノ信賴スル有力ニシテ當領華僑ニ知己多キ支那人（日本人ハ不可）ヲ商用ヲ目的トスル建前ニテ當領ニ派遣シ當館其ノ他日本人トハ全然關係ナク有力華僑及中堅層ト膝付キ合ハセテ談合セシムルコト效果のナリト思考ス
在支本多大使ヘ其ノ他御見込ニ依リ關係公館ヘ轉電請フ

650

昭和16年9月3日

在メダン野々村領事より
豊田外務大臣宛（電報）

蘭印の資金凍結が在留邦人へ与えた打撃にも
鑑み蘭印に対する断固たる方針を至急決定方

意見具申

メダン 9月3日後発

本省 9月3日夜着

第九五號（館長符號扱）

貴電合第一七七八號ニ關シ（凍結令ニ關スル件）

天羽次官へ

日蘭印關係ハ日蘭會商決裂後ノ蘭側對日敵性經濟措置ヲ經テ資金凍結ニ迄立ち至リタル處今假ニ資金凍結以前ノ状態ニ戻リ得ルトシテモ在蘭印邦人權益ハ依然トシテ頗ル不利ノ地位ニ置カル況ヤ右凍結ノ撤回ナクシテ部分的ナル經濟關係ノ調整ノ如キハ何等意味ナシ蘭印カ今日迄政治經濟等各般ニ亘リ敵性ヲ露骨ニ發揮シタル幾多ノ事實アリ資金凍結ノ如キハ我ニ對スル明白ナル挑戰行爲ナリ

今ヤ在蘭印邦人ノ權益カ悉ク最後ノ防衛陣放棄ノ已ムナキ

ニ至リ而モ大東亞共榮圈ノ南方中樞蘭印カ我ニ取リ如何ニ重大意義ヲ有スルヤヲ知ラハ早キニ臨ミ我方ノ斷乎タル方針決定コソハ總テノ日蘭關係延テハ共榮圈問題ノ解決ヲ齎スモノト信ス

651

昭和16年9月3日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

凍結資金解除や輸出許可に関する対日折衝での
蘭側の遷延的態度につき交渉担当者の観測報告

バタビア 9月3日後発

本 省 9月4日前着

第九一四號(大至急)

今川ヨリ頭取席へ

第一號

貴電ニ對シ回答ス

蘭側ハ對日輸出ニ對スル方針未タ決定ニ至ラスト稱シ我方提案ニ對スル回答ヲ徒ニ遷延シ居リ其ノ眞意奈邊ニ在リヤ確ニハ突止メ難キモ大體次ノ如シト觀測セラル

一、本邦凍結資金ヲ解除シ之ヲ清算スル問題ハ蘭側ノ反對要

求額ノ審査手間取り清算スヘキ純凍結資金ノ査定未了ナリ從テ整理方針決定ニ至ラスト稱スルモ實ハ第三國通貨ニ依ル決済方法ヲ取ルニシテモ英米政府ノ了解ヲ取付クルニ困難ナル事情伏在シ居ルカ爲ナリト察セラレ
金現送ニ依ル決済ハ面目上不可能ナリト稱シ居レリ

二、御訓電ノ「バーター」ニ依ル通商問題ハ對日輸出ニ對スル政府方針如何ニ掛ルモ之亦英米政府ノ今後執ルヘキ對日經濟壓迫政策如何ニ關聯シ蘭印政府單獨ニテハ決定シ難キ事情ニアリト察セラレ

蓋シ蘭印政府ハ南部佛印ニ於ケル進駐ヲ以テ蘭印ニ對スル直接脅威ト見做シ又軍需品ノ對日輸出ヲ以テ日本ノ對蘭印戰鬪力ヲ強化スルモノト斷定シ居ルカ故ニ此ノ種商品ノ輸出ハ假令一噸ナリト雖祖國竝ニ聯合國ニ對スル感情上ヨリ容認シ難シト公言シ居ル實狀ニシテ「バーター」取引開始可能ナリトシテ軍需品ノ輸出ハ承諾セサル可ク若シ之等ヲ除外スルトセハ「バーター」取引ハ事實問題トシテ實行不可能且無意義ニ終ルヘシ

三、之ヲ要スルニ蘭印政府ハ英米政府ノ今後ノ方針竝ニ政策ヲ注視シツツ之ト睨合セテ對日方針竝ニ政策ヲ決定セン

トスル態度ヲ持シ居ルコトハ極メテ明瞭ニシテ目下舞臺
ハ華府へ移行當地ハ暫クメエンノ状態ナリ

最後ニ今後ノ見透シナルカ小生個人ノ見ル所ヲ以テスレハ
目下ノ處蘭印側ニ誠意乏シク且我國ヲ恐怖シ居ル限り一般
問題ノ解決ハ至難ナリ但シ小生ハ最後迄努力スル覺悟ナリ

652

昭和16年9月6日

在バタビア石沢總領事より
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に関するホーフストラーテンの
私的発言につきパプスト公使の誤解解消方要
望について

バタビア 9月6日後発
本省 9月7日前着

第九三八號(館長符號抜、大至急)

次官へ

一、五日「ホ」本官ヲ來訪外務次官ハ「パ」ニ對シ石澤總領

事報告ニ依レハ蘭印政府ハ日本政府カ

イ、佛印南部占據ニ依リ日本ハ蘭印攻撃ヲ企圖スルモノ

ニアラサル旨聲明スルト共ニ

ロ、佛印ヨリ撤兵ヲ實行

スルニアラサレハ今後石油ノ對日輸出ヲ許ササル方針ノ
ミナラス右イ、ロ、カ實行サル場合ト雖モ石油ノ無條
件輸出ヲ許可スルコトハ不可能ニシテ輸出ヲ許可シ得ヘ
キ石油ハ日本ノ戰鬪能力ヲ増進セシムルコトナキ種類ニ
限定スヘク右種類ニ付テハ目下専門家ニ於テ研究中ニシ
テ近ク其ノ結果ヲ待チ決定セラルルコトトナルヘシト自
分カ内話シタル旨述ヘラレタル由ナリ右ハ貴官ヨリ突込
ミタル反問アリシニ付自分ノ承知シ得ル限りニ於テ政府
ノ傾向ヲ率直ニ内話シタルモノニシテ訓令ニ基キ要求シ
タル譯ニハアラス然ルニ「パ」ノ來電ハ内容ニ於テ相當
相違シ居ルノミナラス蘭印政府カ撤兵ヲ要求シタル形ト
ナリ居リ總督及「モ」ヨリ質問ヲ受ケタリ自分カ特ニ貴
官ニ對シ胸襟ヲ開キテ内話セル内容カ斯ク誤傳セラルル
ニ於テハ今後ハ腹藏ナキ意見ノ開陳ヲ差控フル外ナキコ
トトナルヘシト述ヘタリ本官ハ自分ノ報告ハ斯カル誤解
ヲ生セシムル餘地ナシ本件ハ「パ」公使カ今日迄ノ經緯
ヲ充分理解シ居ラサル爲恐ラク「コンセツシヨン」ニ關
スル部分ト賣油ニ關スル部分トヲ混同誤解セル結果カト

思考ス照電ノ上貴官ノ立場ヲ明白ナラシムル様努力スヘシト答へ置キタリ

二、「ホ」ハ約五年前石澤「ハルト」協定締結ノ際「ハ」ヲ補佐シテ終始本官ト接觸シタルノミナラス協定成立後本官ト特ニ本邦ニ於テ輸出組合對蘭商ノ問題解決ノ爲盡力幹旋ヲナシタル關係モアリ本官ニ對シテハ特ニ胸襟ヲ開キ意見ヲ開陳スル次第二シテ今次日蘭會商ニ於ケル本官ト「ホ」トノ會談經過ニ依リテモ極メテ明白ナル通り「ホ」ノ言ハ大體ニ於テ結局蘭印政府ノ方針ナル場合多キ次第ナリ「ホ」カ今後口ヲ緘シテ語ラサルニ至ルトキハ形勢判斷上我方ノ不利大ナルモノアルヘシ就テハ速カナル機會ニ「バ」公使ヲ招致シ其ノ誤解ヲ御指摘相成リ「バ」ヲシテ是正電報ヲ發セシメラルル様御取計請フ斯ク願ヒ得レハ「ホ」ノミナラス本官ノ立場ヲモ總督及「モ」ニ對シ明朗ナラシメ得ヘシト思考セラルルニ付御措置濟ノ上ハ會談ノ要領御回電ヲ請フ

653

昭和16年9月12日

豊田外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

ホーフストラーターテン発言につきバプスト公使の誤解を解消し蘭印政府の対日石油政策に關するわが方抗議への回答督促について

本省 9月12日後7時20分發

第五七五號(大急、極秘)

一、貴電第九三八號ニ關シ

今十一日「バ」ヲ招致通商局長ヲシテ會談セシメタルカ局長ハ過日次官ヨリ貴公使ニ對シ「ホ」ノ石澤總領事ニ語りタル「日本軍ノ佛印南部撤退云々」ノ件ニ關シ話サレタル點ヲ貴公使カ蘭印政府へ如何様ニ報告セラレタルヤ實ハ同總領事ノ報告ニ依レハ「ホ」ハ全ク私見トシテ内話シタルモノナル處貴公使ノ報告アリタル爲總督及經濟長官ヨリ右内話ニ付質問ヲ受ケ「ホ」ハ甚タ迷惑シ居ル趣ナリト述ヘタルニ「バ」ハ次官ヨリ「ホ」ノ意見ハ蘭印政府ノ意向ヲ正當ニ表明シタルモノナリヤトノ御實ネアリタルニ付之ヲ同政府ニ照會シタル次第ナリ然シ之ニ對シ未タ回答ナキモ若シ唯今御話ノ通蘭印政府首腦部カ「ホ」ニ質問シ居ル以上右内話ハ全ク「ホ」ノ私見ナリシコト明カトナリタルモノナレハ本件ハ之ヲ以テ自然

解決シタルモノト心得可然ヤト申出タルヲ以テ局長モ之ヲ以テ本件ノ終結トスルコト結構ナリト思考スト答ヘタル趣ナルニ付右ニ御承知相成度

二、尙其際局長ヨリ買油及石油鑛區問題ニ付次官ノ要求ニ對スル回答ヲ迫リタルニ「パ」ハ本國政府ヨリ未タ回訓ナキ旨ヲ述ヘ且ツ一般國際環境明瞭トナル迄ハ蘭印政府ニ於テモ態度ヲ決シ兼ヌルモノト思考スト答ヘタルニ付局長ハ現在蘭印方面ニ在ル「タンカー」カ燃料及食料ノ缺乏ト鬪ヒツツ一ヶ月以上モ許可ヲ待チ居ル爲乘組員ノ苦難甚大ナル實情ヲ述ヘ一日モ速カニ不取敢此等「タンカー」ニ對スル許可ヲ與フル様強調シタル處「パ」モ全然同感ナルニ付大至急可否回答方政府へ勸獎スヘシト答ヘタル由(此項御參考迄)

654

昭和16年9月17日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

対日輸出許可の新方針回答方蘭印政府へ督促
について

バタビア 9月17日後発
本省 9月17日後発
第九九七號(大至急、外機密)

本十七日「ホ」ト會見ノ際重ネテ蘭側ノ對日物資輸出許可新方針回答方ヲ督促セル處十六日在倫敦本國政府ニ對シ督促電報セルニ付多分今週中ニハ何分ノ儀通報シ得ル運卜ナルヘシト思料スル旨答ヘタリ不取敢

655

昭和16年10月9日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日蘭印間バーター貿易に関する蘭側提案につ

いて

別電

昭和十六年十月八日発在バタビア石沢総領事

より豊田外務大臣宛第一〇八五号

右提案をめぐる蘭側との会谈内容

バタビア 10月9日前発

本省 10月9日前着

第一〇八四號(大至急)

本八日午後十時半「ホ」次官本官ヲ來訪シ本國政府ヨリノ

回訓ニ依ル旨ヲ前置シ左ノ要旨通告スルト共ニ左記ニ對スル日本側回答ヲ要請セリ(本官ヨリ質問應答セル内容別電ス)

一、和蘭政府ハ現下ノ不安定ナル國際情勢ニ鑑ミ此ノ際對日物資輸出ニ關シ具體的態度ヲ決定シ難ク又何時頃決定シ得ルヤ明言シ難キモ差當リ右決定ヲ見ル迄可能ナル範圍ニ於テ「バター」取引ヲ爲ス用意アリ
二、右ニ關聯シ蘭側ハ第一回「バター」取引トシテ左記ヲ提案ス

(イ)金額五百萬盾

(ロ)蘭側物資砂糖、珈琲、木材(ボルネオ)産、「カポツク」種、棉種、玉蜀黍、「カツサバ根」、胡椒

(ハ)蘭側希望日本側商品錫罐詰、明礬、鹽酸(粗製及精製)、亞鉛、革、窓硝子、莫大小製品、釘、自轉車部分品、掛「ランプ」、壁「ランプ」、硝子「コップ」、晒「キヤンプリツク」、白「シヤーチング」、茶碗及皿、「セント」

但シ日本側ニ於テ右ノ中輸出ニ難色アルモノアラハ削除セラレ差支ナシ

(ニ)決済方法日本側ハ蘭印物資代價ノ四分ノ一ヲ「ジャバ」銀行日本取引勘定(CAC)ヨリ支拂殘リ四分ノ三ヲ前記日本品ヲ以テ支拂ハレタシ

(ホ)在日蘭商ノ代金支拂濟商品ハ右取引開始ト同時ニ第一船ヨリ運搬セラレタシ

「スラバヤ」、「メナド」、「メダン」、「マカツサル」へ轉電セリ

(別電)

バタビア 10月8日後発
本省 10月9日前着

第一〇八五號(大至急)

往電第一〇八〇號(一〇八四)ニ關シ

本官ヨリノ質問竝ニ「ホ」ノ回答要領左ノ通

一、今回ノ如キ簡單ナル回答ヲ通報スルニ斯ル長時日ヲ要シタル理由如何ト質セル處問題ノ重要性ニ鑑ミ多數ノ關係當局間ニ慎重協議ヲ要シタルカ故ナリト答ヘタリ

二、右ノ會談ノ經緯ニ依レハ蘭側ハ相當量ノ石油ヲ賣リ續クル建前ノ下ニ盾拂ニ同意セル次第ナルニ不拘右ヲ無視シ

今後ハ一噸ノ石油ヲモ供給セストノ意嚮ナリヤト質セル處正式回答ニアル通り未タ根本的態度決定セサル次第第二シテ今後一切供給セストノ意嚮ニハ非スト答ヘタリ

三、今次「バーター」取引ノ對象物タル蘭側物資ハ如何ニモ貧弱ニシテ對日「エンバーゴ」ニ外ナラスト印象セラルル處右八品目以外ハ全然考慮ノ餘地ナキ次第ナリヤト質セル處南洋興發ノ粗麻(イチビ?)ノ如キハ研究ノ上追加方考慮スルモ差支ナシト答ヘタリ

四、右以外ハ第二回以後ノ「バーター」取引ニ於テモ絶對ニ品目増加ノ意嚮ナキ次第ナリヤト念ヲ押シタル處情勢ノ變化如何ニ依リテハ増加スルコトアルヘシト答ヘタリ

五、一ヶ年ノ取引總額ニ關シ如何ナル見當ヲ付ケ居レリヤト質セル處別段ノ目安ハ無キモ第一回「バーター」取引ノ了解成立セハ直ニ第二回以後ノ取引ニ關シ話合ヲ續クル用意アリト答ヘタリ

六、我方カ蘭商ノ支拂濟商品ノ輸出ヲ許可シタル例ニ倣ヒ在邦商(留外)ノ支拂濟手持物産ノ輸出ニ付テハ勿論異議無カルヘシト質セル處「ホ」ハ前者ハ在蘭印本社ノ命ニ依リ買付ケタルモノニシテ且軍需品ニアラサルニ反シ日本商ノ

モノハ見込買ニシテ上記八品目以外ノモノハ屑鐵等ノ如

ク純粹ノ軍需品ナルヲ以テ許可シ難シト答ヘタルニ付註文主ノ如何ニ拘ハラズ支拂濟ナルコトニ變リ無ク且綿絲布ト雖モ廣義ニ解釋スレハ軍需品ト異ナラサル點ヲ指摘シ蘭側ノ不當ナル態度ヲ詰レルモ「ホ」ハ納得スルニ至ラス依テ本官ハ然ラハ蘭側トシテハ我方カ蘭商ニ對シ無條件解約ヲ認メタル例ニ倣ヒ少クトモ無條件解約ヲ許可シ以テ邦商ニ損失ヲ蒙ラシメサル様努ムルコト至當ニシテ右マテモ拒否セラルルニ於テハ我方トシテハ損害賠償ヲ要求スル外無シト強調セル處「ホ」ハ貴言御尤ニシテ既ニ「セレベス」興業及二葉商會ト「コプラ」トシテハ實際支拂ヒタル原價ヲ以テ買上方指令濟ナルカ其ノ他ノ商品トシテモ出來得ル限り損失ヲ少カラシムル様考慮ノ用意アリト答ヘタリ

七、⁽³⁾野村及東山ノ「パームオイル」ハ如何ト質セル處對日輸出ハ差當リ許可シ難キモ世界的需要増大ニ依リ兩農園ハ「プール」ヲ通シ容易ニ其ノ生産量ヲ販賣シ得ル筈ナリト答ヘタリ

八、「キニーネ」及規那皮ノ輸出ヲ許ササルハ人道上ヨリ言

フモ不都合ナリト述ヘタル處本年二入りテハ既ニ今日迄相當多量ヲ輸出シ居ルコト竝ニ本品ハ熱帶作戦ニ必需ノ軍需品ナル事ニ鑑ミ差當リ輸出ヲ差控ヘタキ次第ニシテ日本國民自身ノ必要トスル普通數量ハ後日更ニ輸出許可方考慮スヘシト述ヘタリ

六、日本品輸入ニ際シテハ我方ニ於テハ在留邦商ノ營業繼續ヲ可能ナラシムル爲相當量ノ雜貨類ヲ加フル要アリト認め居ル處右異議無キヤト質セル處其ノ種類ト金額ニモ由ルコト乍ラ出來得ル限り好意的ニ考慮スヘシト答ヘタリ
(本件ハ更ニ具體的話合ヲ續クルコトニ打合せタリ)

七、四人會談ニ於テ蘭側ハ出來得ル限り速ニ凍結資金ヲ清算方同意セルニ拘ラス之ヲ「バター」取引ニ關聯セシメテ其ノ清算ヲ徐々ニ行ハントスル理由如何ト質セル處日本船カ蘭印物産積取ノ爲來航スルカラニハ日本品ノ輸入セラルルコト望マシク又日本品カ到來スル以上ハ大體略々滿船ニテ來ルコト望マシキニ付之ヲ關聯セシメタル次第ナルカ日本政府ニ於テモ兩國間ニ船舶ノ往來スル限りハ日本品輸出ニ御異存無カルヘシト推察スル旨答ヘタリ

(4) 二、四分ノ一對四分ノ三ノ割合ハ之ヲ固執スル次第ナリヤト質シタル處別段固執ハセサルモ半々ノ割合トスル如キ場合ハ輸入商品ノ數量カ餘リニ僅少トナルコトヲ惧ルル譯ナリト答ヘタリ

三、何故a勘定(現在一千四百萬盾)ノ清算ニ言及セサルヤト質セル處蘭側調査ニ依レハ對日蘭側債權一千四百萬盾以上ニ達スルニ付之ト相殺セシメ度キ意嚮ニシテ右ニ付テ四人會談ニ於テ協議シ度シト答ヘタリ

三、C勘定ノ現在額ヲ質セル處九百萬盾ト答ヘタリ

四、蘭商手持商品ニ關シ國際決算未了ノ百二十萬圓ハ如何ニ處理スル心算ナリヤ確メタル處今後ノ話合ニ依リ蘭印物資又ハ英貨磅ニ依リ決済シ度シト答ヘタリ

「スラバヤ」、「メナド」、「メダン」、「マカツサル」へ轉電セリ

656 昭和16年10月9日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蘭印の対日資金凍結の不合理を指摘し日蘭関係改善に積極的に努力する道義的理由なく近

く帰朝する旨蘭側へ通報について

バタビア 10月9日前発

本省 10月9日前着

第一〇八六號(外機密、大至急)

往電第一〇八五號二關シ

蘭側回答内容ノ論議ヲ終リタル後本官ヨリ「ホ」ニ對シ貴官ハ會商當時ヨリ蘭印ノ獨自性ヲ常ニ強調シ居ラレタルカ最近ノ蘭側諸措置及今次回答ハ全ク英米ノ夫レト同一ナラスヤ何レニ蘭印ノ獨自性アリヤト反問シタル處「ホ」ハ蘭印ノ獨自性ハ今猶變化ナシ例ハ英米ハ支那問題ニ關シ日本ト葛藤ヲ續ケ居レルカ蘭印ハ英米ノ對支政策ニ同調スルコトナシ然レトモ日本ノ南佛印ヘノ進駐ハ日本朝野ノ到底想像シ得サル程ノ「シヨツク」ト直接脅威ヲ蘭印ニ與フルモノニシテ斯クナリタル以上蘭印トシテ自己防衛ノ爲凡ユル手段ヲ執ルヘキハ當然ニシテ英米ノ對日政策ニ同調スルコトモ亦已ムヲ得サル所ナリ右ヲ以テ蘭印カ其ノ獨自性ヲ拋棄セルモノト見ラレルハ當ラス換言スレハ蘭印トシテハ日本ノ脅威増大スレハ勢ヒ獨自ノ立場ニ於テ英米トノ同調ヲ強化スヘク脅威薄ラケハ夫レニ應シ同調ノ必要モ薄ラク

次第ナリト答ヘタリ

次二本官ハ今次蘭側回答ハ六月六日ノ回答ヲ全然破棄スルモノナルノミナラス賣油契約及石油「コンセツション」ヲ破棄スルモノニシテ不都合ナリト責メタル處「ホ」ハ破棄スト云フニハ非ス新事態ニ基ク對蘭印脅威カ去ルマテ總テノ實行ヲ當分停止スト云フカ眞意ナリト答ヘタリ

最後ニ本官ハ最近ノ蘭側諸措置ニ就テハ自分ハ素ヨリ日本朝野ハ憤激抑ヘ難キモノアルモ何トカ日本蘭印間ノ關係ヲ改善スヘシト考ヘ自重シ來レリ然ル處今次凍結令ノ如キハ僅カニ三百萬圓ノ既契約支拂濟商品ヲ蘭商ノ爲確保センカ爲ニ執ラレタル措置ニシテ而モ調査ノ結果蘭商ニ依リ國際の二支拂ハレタル金額ハ僅カニ二百五十萬圓ニ過キススル少金額ノ爲何故ニ凍結令ノ如キ行キ過キタル措置ヲ執ラレタルヤ全ク理解ニ苦シム所ナリ而モ在蘭印邦人輸出業者カ蘭印政府ノ輸出禁止措置ニ依リ蒙レル損害ニハ一顧タモ與ヘス又凍結令ノ結果既ニ邦人小賣商(六字不明)ヲシテ辛苦ノ結晶タル其ノ店舗ヲ閉鎖スルノ已ムナキニ至ラシメ當領ヲ引揚ケタル邦人婦女子、男子ハ三千五百名ニ及ビ居レリ斯クノ如キハ蘭側カ其ノ不合理ナル措置ニ依リ日蘭三百年ノ

歴史ニ一大汚點ヲ印シタルモノニシテ日本國民ノ決シテ忘レ得サル所ナリ自分トシテハ假令如何ナルコトアルモ日蘭關係ヲヨリ以上惡化セシメサラント欲スル氣持ニ於テ今猶變ル所ナキモ斯クノ如キ有様ニテハ最早ヤ當地ニ帝國ヲ代表シ兩國關係改善ノ爲積極の二努力スヘキ道義の理由ヲ發見シ得ス依ツテ自分ハ政府ニ對シ既ニ歸朝願ヲ打電シ置キタルカ其ノ許可ヲ得タルカ故ニ遠カラス當地ヲ去ル豫定ナリト述ヘタリ「ホ」ハ自分トシテハ凍結令發布ノ措置ヲ執ラサルヲ得サリシ實相ニ付テハ遺憾ヲ感シ居リ實際上凍結ヲ解除シ得ル様種々努力シ來レルコト御承知ノ通りナリ實際情勢緊迫シ居レル今日最モ良ク蘭印ヲ理解シ多年兩國間ノ難問題處理ニ當ラレタル貴官ヲ當地ヨリ失フコトハ甚タ残念ニ耐ハサルモ南佛印ヨリノ脅威ト云フ蘭印ニトリ死活ノ事態發生セル限り大局的ニ日本蘭印ノ關係ヲ改善セント欲スルモ又如何トモ爲シ得サルヘシ然レトモ小範圍乍ラ日蘭間ノ貿易ハ之ヲ繼續シ得ル餘地アル次第ナレハ自分トシテハ其ノ範圍内ニ於テテモ對日關係ヲ友好的ニ取扱フ用意アルト共ニ在蘭印日本人ニ對シテハ蘭印政廳ノ根本方針ト背馳セサル範圍ニ於テ諸問題ヲ好意的ニ取計度キ積リナリ

ト答ヘタリ

657 昭和16年10月11日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日蘭印間バーター貿易案への対応振り請訓

バタビア 10月11日夜発
本省 10月11日夜着

第一〇九三號(外機密、大至急)

往電第一〇九二號ニ關シ

「バーター」取引ニ對シ原則トシテ御同意ナリヤ否ヤノ點不取敢至急御回電相煩度尙上海綿絲布輸出許可制ハ本官等ヨリノ進言ヲモ御考量ノ上實施セシメラレタルモノカト拜察スル處蘭側ニ回答ノ都合モアリ又本官トシテ詳細承知致シ置キ度キニ付事情併セテ御回電ヲ請フ

658 昭和16年10月15日

在バタビア石沢総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

一船ごとのバーター取引を提案すれば交渉決

裂のおそれがあり蘭側提案受諾のやむなき旨

意見具申

バタビア 10月15日後發

本省 10月16日前着

第一一二號(大至急、外機密)

往電第一〇九三號二關シ

一、蘭側提案ニ對シテハ當分回答セス差當リ殘留邦商ノ爲一
船毎ノ「バアター」ヲ行ヒタキ旨ノ御回訓(貴電第六三
三號)ニ接セル處(イ)今次蘭側回答カ最惡ノ場合經濟斷行
ノ結果ヲ來スモ已ムヲ得ストノ決意ノ下ニ行ハレタルコ
トハ略瞭ナリ從テ蘭側トシテハ日本側ニ於テ蘭側提案
ノ「ライン」ニ依ル「バアター」取引ニ原則的ニ不同意
ナリトセハ右ノ經濟斷行ヲ招來スルコトトナリ斯クナル
上ハ在蘭印日本商ノ權益擁護ノミヲ目的トスルカ如キ問
題ニ對シ好意的考慮ヲ拂フコト不可能ナリトノ態度ヲ示
シ居ル次第ニ付貴電第六三三號ノ趣旨ヲ其ノ儘申入ルル
モ蘭側ハ之ニ同意セサルヘク(ロ)當地關係業者ノ意見ヲ綜
合スルモ一船毎ノ「バアター」ト云フカ如キコトニテハ
目先不安定ナレハ事實上商取引ヲ繼續シ得ストノ結論ニ
大體一致シ居レリ

三、從テ我方トシテハ蘭側提案ヲ斷乎一蹴スルカ又ハアツサ
リ之ヲ容レテ兩國通商ヲ兎毛角存續セシメツツ國際情勢
ノ有利ナル展開ヲ待ツカノ二途アルノミト思考ス然ル處
次ニ打ツヘキ手段ノ用意無クシテ一蹴セハ凍結資金ノ解
除ハ至難トナリ在留民ハ殆ト全部引揚ケノ已ムナキニ至
ルコト明瞭ナリ就テハ政府ニ於テハ右二點ノ内何レヲ取
ラルルヤ承知致度シ本官トシテハ我ニ二ノ手ヲ打ツ用意
無シトセハ此ノ際ハ原則的ニ「バアター」取引ニ同意ノ
上邦商救濟竝ニ出來得ル限りノ物資獲得ニ努ムルコト得
策ト思考シ居レリ何分ノ儀至急御回電相煩ハシタシ



659

昭和16年10月19日

在バタビア石沢総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

一船ことのバーター取引提案に対する蘭側回

答振り報告

バタビア 10月19日前發

本省 10月19日前着

第一一二八號(緊急)

(1)日本側トシテハ「バーター」取引ノ主義其ノモノニハ別

段異議アル次第第二ハ非サルモ蘭側提案ノ如キ「バーター」ニ付テハ關係當局ニ於テ總ユル角度ヨリ其ノ可否ヲ充分研究ノ要アルヲ以テ短時日中ニ回答致シ難キモ差當リ一船毎ノ「バーター」ナラハ異議ナシ就テハ第一船トシテ日昌丸ニ「チサラク」積殘シ貨物竝ニ在留日本商向ケ雜貨五、六十萬圓ヲ積込ミ復航ニハ砂糖其ノ他ヲ積取ルコトトスヘシト述ヘタル處「ホ」ハ御言葉ニ對シテハ失望ヲ禁シ得ス蘭側提案ニ對シ原則的ニ同意セラルルヤ否ヤノ回答モナク日本商ノ爲ノミノ商品ヲ輸入シタシト云フカ如キニテハ蘭側ニ取り何等興味無キニ付同意困難ナリト答ヘタリ

二、依テ本官ヨリ「チサラク」積殘シ貨物ハ蘭側ノ歡迎スルモノナルハ勿論ナランカ邦商向ケ雜貨モ結局蘭印大衆ノ消費用ナルニ付歡迎セラルヘキニ非スヤト述ヘタル處「ホ」ハ「チ」號貨物ハ從來ノ經緯ニ鑑ミ當然輸送セララルヘキモノナルニ付新タナル「フエバー」ト認ムル能ハス亦雜貨類モ日本側ニ於テ勝手ニ其ノ品目ト數量トヲ決定セラレントスル次第ナレハ果シテ蘭側ノ希望ニ副フモノナリヤ不明ニ付餘リ興味ナシト答ヘタリ

三、右ニ對シ本件ハ蘭側在日蘭商及蘭銀ノ困難ニ付テハ常ニ口喧シク日本側ノ好意的取計ヲ要望セラレ我方トシテモ出來得ル限り便宜供與ヲナシ居ル次第ナルカ當領在留日本商ニ對シテハ何等誠意アル取計ヲ欲セストノ趣旨ナリヤト詰リタル處「ホ」ハ出來得ル限り好意的取計ヲナサントスル氣持ニハ變化ナキモ今次ノ御申出ハ其ノ儘ニテハ到底上局ノ同意ヲ得ル事困難ナリ就テハ「チ」號積殘シ貨物ニ關シ左ノ「ライン」ニテ日本政府ノ御承認ヲ得ハ日昌丸ニ關スル限り解決可能ナリト答ヘタリ

四、「チ」號貨物中國際決済未完了分百二十萬圓ハ英貨磅ニテ支拂差支ナシト事ナリシニ付折角英國政府ノ同意ヲ取付ケタルモ最近日本側ニ於テ右決済ヲ拒絕セラレシ爲メ頗ル困惑シ居レリ「チカル」ニ依ル決済ハ米國側ヨリ之ヲ拒絕シ來レルニ付之レ亦不可能ナリ一方日本側ニ於テ無條件カイキンヲ許サレストセハ策ノ施シ様ナキ次第ナリ依テ右決済ハ砂糖其ノ他八品目ヲ以テスル事トシ百二十萬圓分ヲモ日昌丸積込ヲ許可セラレ度シ

右許可ノ場合ハ同船カ復航貨物トシテ合計百八十萬圓(雜貨ヲ六十萬圓ト見テ)ニ相當スル砂糖其ノ他ノ物資積

取ニ同意致スヘク若シ日昌丸積取分ニテ右金額ニ達セサルトキハ南林、「ボルネヲ」物産等ノ木材其ノ他ヲ別船ニテ輸出方許可スルモ差支ナシ

五、仍テ本官ハ國際決濟力第三國貨幣ヲ以テスヘキコトハ四人會談ニ於テモ屢々審議セラレタル問題ニシテ砂糖以下ノ物資ニ依ル決濟ニ付日本政府ノ同意ヲ得ルコト容易ニアラスト思考ス就テハ「タイ」國トノ貿易關係大ナル英國側ノ同意ヲ得テ「チカル」決濟ニ努力セラレタシト述ヘタル處「ホ」ハ從來ノ經緯ニ鑑ミ右ハ到底不可能ナルニ付是非トモ日本側ノ好意的考慮ヲ煩シ度キモ日本側カ右ニ同意セラレストセハ在日蘭商及蘭銀ノ窮狀深刻化スヘク左スレハ蘭印ニ於テモ在留日本商、事業家竝ニ日本銀行ニ對シ現在享有シ居ル諸種ノ便宜ヲ撤廢乃至縮少スヘシトノ主張強マリ双方トモ收拾シ得サル狀態トナル惧アル處右ハ兩國ニ取り好マシカラサル次第ナルコト申ス迄モナキニ付此ノ點充分御含置相成度シト答ヘタリ

昭和16年10月23日

在バタビア石沢總領事より
東郷外務大臣宛(電報)

日蘭印間の貿易継続のためにはわが方の根本方針提示が必要の旨意見具申

バタビア 10月23日後発
本省 10月24日前着

第一一三八號(外機密、大至急)

貴電第六五〇號ニ關シ(蘭印殘留邦商救濟ノ件)

一、復航物資積取サヘ斷念スレハ雜貨相當量輸入竝ニ小賣商ヘノ配給可能ナルヘシト御想像相成リ居ルモノノ如キモ蘭側方針ハ累次往電ノ通り日蘭印貿易ノ將來ニ付根本的ニ再檢討ヲ加ヘタル結果決定セラレタルモノニシテ其ノ要領左ノ如シ

(イ)日本ノ佛印進駐ヨリ來ル脅威ニ備フル爲日本蘭印間ノ貿易ハ斷絶スルモ已ムヲ得ス蘭印トシテハ右ニ依リ不便ヲ補フ爲新ニ米國及濠洲トノ間ニ特殊經濟關係ヲ結ビ英國トノ緊密關係ト相待チテ蘭印ノ需要ヲ充シ得ヘシ

(ロ)然レトモ自ラ進シテ貿易斷絶ノ措置ヲ執ルコトハ之ヲ避ケ小範圍乍ラモ蘭側ヨリ見テ可能且好マシキ方法アラハ右「ライン」ニテ日本トノ貿易ヲ持續スルモ可ナ

リト爲シ研究ノ結果五百萬盾ヲ限度トスル「バーター」取引ヲ提案セリ

(ハ)日本カ右提案ヲ原則的ニ同意セハ可ナルモ同意セサルトモ痛痒ヲ感スルコト無シ

(ニ)從テ日本側カ蘭側提案ヲ原則的ニ同意セストノ意嚮ナラハ日昌丸ノ雜貨輸入モ許可セス但シ蘭側提案ヲ拒絕スト云フニ非スシテ之カ研究ニ尙手間取ル次第ナラハ差當リノ措置トシテ日昌丸ノミノ「バーター」ニ付便宜取計ヲナスヘシ即チ日本側カ一二〇萬圓申出ニ關シ蘭側希望ヲ容ルルコトヲ條件トシテ右雜貨輸入ヲ許可ス右ニ對シテハ本官ヨリ蘭側ノ身勝手ヲ凡ユル機會ニ攻撃シ議論ヲ重ネタルモ(論争ノ詳細ハ料金節約ノ訓令モアリ到底一々電報ニ盡シ得ス)蘭側ノ方針ハ前記ノ如クシテ確固トシテ動カス從テ冒頭貴電御來示ノ趣旨ヲ申入レレハ先方ハ之ヲ一蹴スルコト必然ナリ

三、本官カ在留邦商救濟ノ爲ニ二百萬圓程度ノ本邦雜貨輸入ノ必要ヲ打電致シタルハ殘留ニ傾キツツアリシ前途ノ不安ニ驅ラレ去就ニ迷ヒ居リタル邦商ニ近ク右雜貨輸入可能ナルヘキ旨ヲ知ラシムレハ何トカ本年末位迄ハ彼等モ殘

留スルヲ決意スヘク其ノ間日蘭印貿易カ或程度ノ目標ヲ以テ安定且持續スルニ仕向クルニ於テハ右邦商ハ將來ニ安定ヲ保チ得ル可能性アリト見透シ得タル結果ナリ然ルニ此ノ際御斡旋ニ依リ日昌丸ニテ雜貨ヲ輸入シ得ルコトトナリタルハ結構ナルモ日昌丸以後ニ於テモ定期的配船及雜貨ノ輸入確實トナル見込付カサレハ此ノ際六〇萬圓程度ヲ輸入スル手配整フモ今日トナリテハ既ニ輸入卸商ハ手持品ヲ支那商等ニ賣渡シ整理ヲ全部完了シ居レルカ又ハ大部分整理済ナルヲ以テ改メテ自己ノ「リスト」ニ於テ日本向ケ發註スルコトヲ欲セス又殘留小賣商モ賣レ足好キ商品カ今後規則的ニ供給セラルルコト確實ナラサル限り損失ノ危険大ナルヲ以テ寧ろ此ノ際有金ヲ持ツテ歸國スルコト得策ナリト考フル傾向大トナリ居リ之ニ對シ本官ハ其處ヲ踏張ル様説得ニ務メ來リタルモ最近人ヲ派シ各地邦商ノ狀況ヲ探ラシメタル處前記傾向頗ル強キコトヲ確メタリ從テ此ノ際日蘭印間貿易關係カ如何ナル程度ニ於テ安定スヘキカノ見透ヲ示シ遣ルニアラサレハ到底彼等ヲ踏ミ留マラシムルコト不可能ナリ本官トシテモ好イ加減ノ氣休メヲ述ヘ此ノ上彼等ヲ更ニ引キ留ムル

モ暫クトシ兩國貿易カ實質上杜絶シ結局彼等モ引揚ノ外無キニ至ルカ如キハ良心的ニ忍ヒ得サル所ナリ寧口貿易杜絶ノ可能性ヲ指摘シテ彼等ヲシテ早キニ及ヒ善處セシメタシト思考ス

三、⁽²⁾蘭商及蘭銀カ窮迫ニ陥リ居ルハ自業自得ナルコト貴電ノ通ナルカ現在ノ日本蘭印關係ヲ大觀スルニ本官着任以來本官及全權ヨリ屢々警告電報ヲ發シタルニモ拘ラス本邦側目覺メス無制限ニ綿布其ノ他ヲ蘭印向ケ輸出セル爲メカ資金ハ蘭印ニダブツクノ結果トナリ遂ニ數千萬圓ニ達シ之ヲ抑ヘラレ居ルニ反シ我方ニ於テ抑ヘ居レル蘭側資金ハ少額ニ過キス又蘭印ニ於ケル邦人ノ生業ハ極メテ廣汎ニ亘リ居レルニ反シ在日蘭人ノ生業ハ微々タルニ過キサル點ニ於テ我方ノ立場極メテ不利ナル次第ナリ從ツテ本官トシテハ政府ニ於テ右我方ノ權益カ如何様ニナルトモ已ムヲ得ストノ肚ナラハ別ニ苦心ノ必要ナキモ然ラサル限りハ在日蘭商等ノ問題其ノ他ニ付蘭側ノ希望ヲ容レ遣リツツ我カ權益ヲ擁護スル外無シト考ヘ居ル次第ナリ

從テ「チサラク」積殘シヲ日本船ニ依リ輸送スル問題ニ

付テモ貴電第五三九號ニ於テ御研究ノ次第アリタルニ付往電第九三六號ノ通り日本船ニ依リ輸送方ヲ本官ヨリ「コンミット」シ蘭側ハ之ヲ信シ北野丸及「ジヨホール」丸ニ我カ必要物資ヲ積込方ヲ承諾セル經緯アルニ拘ハラズ「チ」號カ本邦ニ至ルモ入港許可其ノ他手間取り結局空船ニテ出帆スルノ已ム無キニ至リタルヲ貴電ノ如ク今ニ至ツテ我方トシテ之ヲ輸送シ遣ル責任無シトノ見解ヲ取ラレ又百二十萬圓ノ件ハ詮議シ難シト突撥ネララルニ於テハ蘭側トシテハ我方希望ヲ拒絕スルハ勿論在蘭印日本人ニ對スル諸種ノ便宜ヲ縮少又ハ撤廢スルニ至ルヘク（現ニ今川ヨリ百二十萬圓拒絕等ノ通知ヲ受クルヤ蘭側ハ野村カ蘭印預金ヲ正金へ振替ヘントスルヲ許可セス兩國カ生産物賣上金ヲ正金ニ預ケ入レントスルヲ許サス又最近「インター」ハ經濟省ノ意嚮ニ基ク趣ヲ以テ河波ニ圓ノ「サイザル」取引ヲ拒絕セル等ノ實例現レ來レリ）其ノ結果トシテ邦人企業ハ持續困難トナリ邦人卸小賣商ハ全面的ニ自滅ノ外無キニ至ルコト明カナリ右ニ對シ政府トシテ何等對策ヲ有セラルル次第ナリヤ或ハ將來二期スル所アリテ斯クナルトモ差支ヘ無シトノ見解ヲ取ラレ

ル次第ナリヤ此ノ點御回示ヲ仰キ度シ今日迄何等スル根本ノ點ニ付御回示無キニ付本官ハ蘭側ニ對シ極力其ノ非ヲ糾彈シツツモ忿懣ノ情ヲ抑ヘ實質上凍結資金ヲ解除セシムル様又ハ我必要物資ヲ出來得ル限り積出シ得ル様又在留邦人ノ生業カ全面的ニ壞滅スルコト無キ様苦心交渉シ來タレル次第ナルカ冒頭貴電御來示ノ趣旨ニテハ全く以テ局面打開ノ途無キニ付本官トシテハ「サジ」ヲ投スル外無シ

四、蘭印側カ既ニ對日貿易ニ見切りヲ付ケ英、米、濠洲トノ戰時經濟提携強化ノ方向ニ進ミツツアルコトハ本官ノ屢次ノ報告ニ依リ御了解濟ミト思考シ居ル處之カ具體的實現ノ爲ニハ「ホ」次官自ラ其ノ局ニ當ルコトヲ必要トセラレ居リタルモ彼ハ出來得ルナラハ可能ノ限度ニ於テ日本トノ貿易關係ヲ調整シタシト考ヘ居リタル次第ナル處遂ニ見切りヲ着ケタルモノト見エ來ル三十一日總督ノ命ニ依リ相當期間ノ豫定ニテ濠洲ヘ向ケ出發スルコトトナレル趣ナリ「ホ」出發後ハ「モ」長官又ハ新通商局長「スヒンメル」ト交渉ノ外無キ處「モ」ハ最近甚タシク反動的トナリ居リ「ス」ノ不得要領ニシテ擱ミ所無ク何

事モ運ハサルヘシト思考セラル就テハ御再考ノ上我カ對蘭印貿易根本方針御決定相成リ「ホ」ノ出發迄ニ何分ノ儀御回電ヲ請フ

661

昭和16年10月29日

東郷外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

對蘭印貿易に関する根本方針の提示は不可能
の旨回訓

本省 10月29日後7時30分發

第六八二號(大急、極秘)

貴電第一一三八號ニ關シ

「ホ」カ英貨磅ニ依ル送金拒否ニ對シ不滿アルカ如キモ九月末ヨリ英國カ其屬領地ヨリノ對日輸出ヲ事實上禁止シタルヲ以テ最早ヤ英貨使用ノ途ナキニ至レルニ拘ラス我方トシテハ本月初旬迄ハ英貨ニテモ可ナリトノ態度ヲ持續シタリ然ルニ蘭印側ニテ之ヲ實行セサル爲已ムナク往電第六三三號ノ通申進シタル次第ナリ

然シ本省ニ於テハ在本邦蘭銀及蘭商ノ窮狀ヲ救ハンカ爲往電第六五二號及第六七二號ノ通盡力シタルニ拘ラス之

二關シテスラ蘭印側ニテ何等顧ミル所ナク其捨鉢的態度ハ全然諒解シ得サル所ナリ

三、「チ」號積殘シ分即チ當時國際決濟完了シタル約百六十萬圓ノ商品丈ケニテモ日昌丸ニ積マセ度公使館トモ連絡シ居タルニ拘ラス先方ヨリ何等ノ申出ナク右ハ決シテ倉敷料ノ工面出來サリシ理由ニ非スシテ蘭印ヨリ指圖ナカリシ結果ト思考ス

三、大藏省ニ於テハ若シ蘭銀ノ資金タニ充分ナラハ預金ナキ蘭商ヘノ融通ヲモ承認スヘシト稱シ居ルモ前記一ノ送金スラナキヲ以テ一方的ニ寛大ナル措置ニ出テ兼不居ル次第ニシテ從テ蘭印ニ於ケル邦人企業、商業、銀行業者ハ右ノ如キ實情ニ在ル蘭銀及蘭商ト異ナル狀態ニ在ルヲ以テ「ホ」ノ言ノ如ク先方カ我方ニ對シ報復スル理由ナシト認ムルニ付此點嚴重御申入レ置カレ度

四、國內事情ノ現狀ニ於テハ實際邦船ノ蘭印向ケ規則的廻航絶對不可能ナリ(日昌及高千穂ノ今次廻航ハ本省異常ノ努力ニ依リ奇績的ニ實現セリ貴官限り御含ミ迄)從テ現地邦商ニ對スル邦品ノ今後規則的供給策立タス自然貴官竝ニ各地領事ニ於テモ在留民ニ對シ確固タル指針ヲ與ヘ

得サルヘシト憂慮シ居ルニ付何レ近ク内外ノ情勢判明次第改メテ在留民ノ處置其他ニ關シ電報致スヘシ

五、右ノ如クナルヲ以テ百二十萬圓ノ「バーター」提案ニ付テハ現在船腹ノ期待出來サルヲ以テ對案ノ提出不可能ニシテ從テ「ホ」ニ對シ日、蘭印間貿易ノ根本方針ヲ提議シ難キニ付御承知相成度

662

昭和16年10月31日

在バタビア石沢總領事より
東郷外務大臣宛(電報)

蘭印總督の対日態度につき報告

バタビア 10月31日後発

本省 11月1日後着

第一一六九號(館長符號扱)

一、三十日總督主催送別午餐會ニ出席セル處午餐前總督ハ本官ノミヲ書齋ニ招シ談話ノ機會ヲ得タルニ付專ラ蘭側態度打診(我方ヨリ特ニ強調スヘキ點ニ付囊ニ御指示ヲ仰キ置キタルモ御回電無キヲ以テ)ヲ目標トシテ懇談セルカ要領左ノ通り

(イ)本官ヨリ南部佛印進駐以來日蘭兩國ハ全ク對立關係ニ

陥リ居ル處歸朝ノ上ハ要路ニ對シ蘭側ノ國際政局ニ對スル態度及排日政策ノ眞意ヲ正シク傳ヘタク考ヘ居レリ東郷大臣ハ舊知ノ先輩ナルニ付總督ヨリ何等「メツセージ」アラハ承リ置キタシト述ヘタル處總督ハ蘭印ノ執リツツアル政策ハ貴官日常ノ接觸ニ於テ蘭側責任當局ヨリ御聞キ及ヒノ通りナリ又政策ノ背景ヲ成ス蘭人ノ精神ハ貴官御理解ノ通りニシテ加言スヘキモノ無シ要スルニ蘭印政府ノ方針ハ決定シ居リ既定方針ノ遂行アルノミ尙國際政局將來ノ動キト蘭印ノ地位ニ付テハ自分ハ樂觀シ居ラサルハ勿論ナルカ悲觀モシ居ラスト答ヘタリ

(ロ)日蘭關係ノ將來ニ對スル意見ヲ質セルニ對シ總督ハ新シキ基礎ニ立ツテ兩國關係ヲ改善シ得ル第一ノ機會來ラハ遲滞無ク右機會ヲ捕ヘテ建設的ニ進ミタシトノ希望ヲ失ヒ居ラスト答ヘタリ

ニ、會談中總督ノ示セル冷靜沈着ナル態度ヨリ判斷スルニ蘭印トシテハ日本カ萬一武力ヲ行使スルカ如キコトアルモ既ニ凡ユル對抗準備成リ居レルニ付ビクビクスル必要モ無ク從テ蘭側ヨリ此ノ際積極的ニ日本トノ妥協策ヲ講ス

ル必要モ無シトノ方針ヲ決定シ居レルモノトノ印象ヲ得タリ

663

昭和16年11月1日

在バタビア石沢総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

定期的配船に基づくと日蘭印間パーター貿易実

行方請訓

バタビア 11月1日前発

本省 11月1日前着

第一一七二號(至急)

貴電第六八二號ニ關シ(日蘭通商交渉ニ關スル件)

御來示ノ趣ヲ其ノ儘傳ヘルニ於テハ蘭側ヲシテ兩國通商關係斷絶ノ外ナシトノ見切ヲ前廣ニ付ケシムル事トナリ在日蘭商蘭銀等ノ引揚竝ニ在留邦人壓迫措置ヲ促進シ却テ我方ニ不利ナル結果ヲ來タス惧多キニ鑑ミ三十日「ホ」次官ヲ往訪シ未タ日本政府ノ確定的回答ニ接セサル處本官ハ來月中旬ニハ日本着ノ豫定ニテ當地ヲ出發シ度ク考ヘ居レルニ付歸國ノ上ハ各關係方面ト接觸シ會商後ニ於ケル新情勢ト貴方對日政策ノ變更、蘭側提案ノ眞

意等ニ付充分説明スル積リナルニ付テハ爲念更ニ蘭側ノ見解ヲ明カニシ置キタシト前置シ左ノ通り問答ヲ交シタリ

(イ)先ツ貴方提案ニ對スル本官ノ私見ヲ述フレハ「バーター」ノ

對象の蘭側八品目ハ日本側ノ必需物資ニアラサル處無理ニ買フトスルモ一箇年一千萬盾見當ニ過キサルヘク而モ之ヲ實行セントセハ毎月五、六千噸級船舶四隻ノ配船ヲ要スル處現下ノ情勢ニテハ右様弱體物資ヲ積取ル爲特ニ配船スル價值アリト日本政府ニ於テ認ムルヤ否ヤ疑問ニシテ配船ノ點ヨリ見ルモ貴方提案ノ「バーター」ハ實行不可能トナル惧アリ貴方ニ於テ日本側ニテ特ニ配船ヲ考慮スルニ足ル程度ノ物資ノ輸出ヲ許可シ且日本船ニ平行シ「社船」ノ配船ヲモ考慮スル餘地アリヤト質セル處「ホ」ハ品目ノ増加ハ目下ノ處考慮困難ナリ又現在蘭印船ハ對米、對濠航路ニ其ノ全力ヲ擧ケ居ル實情ナルニ付日本向配船ノ可能性渺ナシト答ヘタリ

(ロ)依ツテ本官ハ然ラハ日蘭印兩國双方トモ出來得ル限り

毎月ノ配船方ニ努力シ何隻カ配船ノ見込ツキタルトキ成ルヘク前廣ニ話合ヲ行ヒ以テ「バーター」取引ヲ實行ストノ建前ニテ

兩國通商ノ存續ヲ圖ルコト可能ナラスヤト思考スル處如何ト質シタルニ「ホ」ハ今次日昌來航ノ如ク全然今後ノ計畫の配船ノ輪廓ニ觸ルルコトナク突然配船シ其ノ都度一隻宛「バーター」ヲナスト言フカ如キコトニハ贊成出來サル旨申上ケ置キタル次第ナルモ貴案ノ如キ或程度ノ計畫的配船ヲ基礎トスル「バーター」取引ナラハ當方モ考慮ノ餘地アリト答ヘタリ

(ハ)本官ハ右「ライン」ノ考ヘ方ニ異議ナクハ貴官ヨリ「モ」長官及「ス」局長ニ其ノ旨充分話置カレ度シト述ヘタル處「ホ」ハ之ヲ了承セリ

三、本官トシテハ兩國通商關係斷絶ノ到來ヲ防止スル爲苦心懇談ノ結果「ホ」ヲシテ前記ノ通り相當我方ノ「ライン」ニ歩ミ寄ラシメタル次第ナルカ日本國內事情ニシテ冒頭貴電ノ通り邦船ノ蘭印向ケ規則的廻航絶對不可能ニシテ前記「ライン」ノ「バーター」モ亦

配船難ノ爲實現ノ可能性無シトセハ取引ノ行ヒ様ナク棟

結資金ノ解除モ見込ナク資産凍結ヲモ招來スヘク殘留邦商、會社銀行企業家等ノ順序ニ於テ其ノ大部分ハ近ク引揚クルノ他道ナキコト明カナリ

三、就テハ前記「(ロ)ノ「ライン」ニ依ル「バーター」實行可能ナリヤ否ヤ御回電アリタシ尙右不可能ニシテ在留民ノ全般的引揚ノ止ムナキ事態ニ立至ルモ邦船ノ來航全然豫測シ得ストセハ「パニック」状態ヲ出現シ收拾スヘカサルニ至ルヘキニ付假令期日ハ確定セストモ毎月尠クトモ一隻ハ來航スヘキ旨申渡シ得ル様關係省ヲ御説得相煩度シ

「スラバヤ」「メナド」「メダン」「マカツサル」へ轉電セリ

664 昭和16年11月14日 東郷外務大臣より
在バタバピア石沢総領事宛(電報)

定期的配船に基づく日蘭印間バーター貿易につき対蘭提議方訓令

本省 11月14日後7時40分発

第七一一號(大急、極秘)

一、往電第七〇六號ノ通邦人ノ引揚ヲ行フトシテモ尙二千名

位殘留スルコトナルヘキヲ以テ此等ニ對スル救濟ニ付種々檢討ノ結果大体貴電第一一七二號ノ趣旨ニ依リ左ノ通措置致度尙最近又々東亞危局ノ宣傳瀕^(項)リニ行ハルルニ至リタル處日、蘭印間ノ通商關係持續ハ帝國不變ノ希望ナリ

蘭印側ニ於テ砂糖外七品目(貴電第一〇八四號二)(ロ)以外ニ「コバル」、「カポック」、「コプラ」、「パーム」油、「タンニン」材、「ヒマシ」、規那皮又ハ「キニーネ」、「サイザル」(鑛油、護謨、錫ノ如キハ蘭印側ノ立場ヲ考慮シ之ヲ提議セス)等竝ニ在留邦商ノ代金支拂濟手持品ノ對日輸出ヲ承諾シ且ツ蘭印側ニ於テモ毎月一船ツツ配船スルニ於テハ關係省説得ノ上本邦ニ於テモ蘭印側希望品目(前記貴電二(ハ)中錫罐詰、化學製品、「セメント」ヲ除ク外ノ輸出及十二月以降毎月一船ツツノ配船ヲ爲スヘキニ付右「ライン」ニ依リ交渉開始相成度

二、尙邦人企業ノ救濟方ニ關シテハ往電第六五八號ヲ以テ申進置タル處前記「バーター」協定成立スルトシテモ斯ル小規模取引ニテハ到底各種邦商ヲ救濟スルニ足ラサルヘキヲ以テ自然金融融資ノ必要起ルヘシト思考セラルルニ

付此際蘭印側ニ對シ凍結資金A勘定ヨリ五百萬盾解除方
御交渉相成結果何分ノ儀回電アリ度

665

昭和16年11月14日
東郷外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

定期的配船に基づくと日蘭印間パーター貿易の
交渉が漏洩すれば在留邦人の引揚げに影響を
及ぼす懸念があるため秘匿方訓令

本省 11月14日午後7時40分發

第七一二號(大急、外機密、館長符號扱)

往電第七一一號ノ交渉ハ相當困難ト思ハルル處其開始カ在
留民ノ間ニ漏ルルニ於テハ之ニ望ヲ掛ケ引揚ケヲ思止マル
モノヲ生スル惧アリ斯クテハ富士丸乗船者ノ數ニモ影響ア
ルヘキニ付本交渉ニ關シテハ在留民ニ對シテハ極秘トセラ
レ度

666

昭和16年11月17日
在バタビア石沢総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

蘭印に對する綿布類輸出制限は蘭側凍結措置

への對抗策として堅持方意見具申

バタビア 11月17日午後發

本省 11月17日夜着

第一二一八號

本官發上海(總)宛電報

第一八號

貴電合第九四一號ニ關シ

當領ニ於ケル最大必需品綿絲布類ノ供給ハ其ノ大部分ヲ本
邦ニ仰キ居タル處(一九三九年乃至四一年八月ノ三箇年間
ニ於ケル總輸出量ニ對シ日本品ノ占ムル割合「パーセンテ
ーヂ」ハ織布用糸九八、四晒布六一、六未晒布九七、一色
ゾメ綿布九二、一捺染綿布六一、七糸ゾメ綿布九四、七ナ
リ)先般日本側ニテ輸出許可制ヲ實施シ其ノ供給ヲ制限セ
ル爲蘭印政府ハ急キ上海品ノ買付ニ依リ之ヲ「カバー」セ
ントセルモ之亦上海海關ノ措置ニ依リ阻止セラルルニ至リ
初メテ日支ノ政策ノ一致ヲ自覺シ相當狼狽ノ色濃キモノア
リタリ從テ蘭側トシテハ現在ノ「ストツク」(平常ノ需要
量ニ依ル推算ニ依レハ大體三箇月程度)ヲ出來ルタケ長期
ニ喰ヒ延ハスヘク荷渡シ制限ヲ強化スル等ノ方法ヲ構スル

(今後五箇月位ハ實需ニ應シ得ヘシ)一方米國品ノ「ブラジル」濠洲方面ヨリ輸出促進ニ努メ其ノ計畫的買付執行ノ爲中央總輸入部ヲ設ケル等着々對策ヲ進メタルモ値段及品質ニ於テ日本品ニ代換スルニハ相當ノ懸隔アリ且數量ノ確保到底至難ニテ之カ影響漸次「サロン」工業ニ及土人大衆ノ生活費昂騰ヲモ來タシ社會問題化スル惧アル様伺ハル蘭印政府トシテハ悲鳴ヲ揚ケ我方ニ扶ケヲ請フカ如キ態度ニ出ツルコトハ現下ノ狀勢ニ於テ先ツナカルヘキモ我方トシテハ此ノ際斷乎トシテ蘭側凍結令ニ對スル報復措置トシテ現方針ヲ堅持スヘキハ勿論ナリト思考ス

尙最近確カナル筋ヨリノ情報ニ依レハ其ノ後引續キチリンシヨウ公司(英商)ノモノ續々輸出サレ居リ十二日「スラバヤ」某蘭商ハ更ニ同公司ト一千箱(プリンテツドジーンズ)及「プリンテドシヤーテング」ノ約定ヲ爲セル趣ニテ又某支那商ハ在上海同支店ニ最近新タニ買付指示ヲ發シタル事實アリ貴地海關取締ニ於テ何等拔道アルニ非スヤト存セラル御調査ノ上右拔道ヲ塞ク様至急御措置アリタシ南大ヘ轉電アリタシ
大臣ヘ轉電セリ

667

昭和16年11月17日

在バタビア石沢総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

蘭印在留邦人大部分の引揚げに伴う支援措置

につき請訓

バタビア 11月17日後発

本 省 11月18日前着

第一二二五號(緊急)

十五日及十六日ニ亘リ當地綿糸布輸入關係者及卸小賣業者ノ會合ヲ夫々開催シ今次富士丸來航ノ趣旨ヲ申渡シ各自善處方要望シ置ケル處大體銀行、會社筋ハ最少限度ニ整理縮少シテ責任者其ノ他二、三名ヲ殘シ剩員全部引揚ニ決定小賣商及雜貨輸入卸商ニ於テハ三、四軒ハ飽迄殘留ヲ決意シテ動かサルモ大多數ハ全部整理引揚ヲ決定セリ然ル處多數小賣商卸商ノ内ニハ期日切迫ノ爲引揚希望ナルモ整理處分ノ間ニ合ハサル向相當アリ就テハ殘留決定者中信用スルニ足ル人物ヲシテ

右ノ如キ處分困難ナル向ノ商品ヲ引受ケシムル様勸説且ツ大體其ノ方針ニ進ミ居ル處二、三小賣商及卸商ニ於テハ税金又ハ借金支拂等ノ爲是非共現金ヲ必要トスル一方引受者

ニ於テハ多大ノ危険ヲ押シテ殘品整理ヲ引受ルモノノ全額即金ニテ支拂フ事至難ナル事情ニアリ依テ當地正金支配人トモ相談セル處同支配人トシテハ此ノ際引揚民ノ窮狀ニ鑑ミニ萬盾程度迄ナラハ引受人ノ引受商品ヲ擔保トシ同人發行ノ手形ヲ割引貸付スルコト可能ト思料スルモ之レカ實行ノ爲ニハ大藏省ノ右貸付ニ關スル總括的許可ヲ取得スル事必要ナル旨申シ居レルニ付可然大藏省御説得ノ上至急何分ノ儀御回電アリタシ

「スラバヤ」「メナド」「メダン」「マカツサル」へ轉電セリ



668 昭和16年12月1日 在バタビア石沢總領事より
東郷外務大臣宛(電報)

太平洋の戦火が避けられないと論断し国民の

一致団結を訴える蘭印紙論調報告

バタビア 12月1日後発

本省 12月2日前着

第一三〇一號

蘭印言論界ハ此ノ一週間日米會談決裂ノ結果ニ怯エツツモ尙最後ノ望ハ捨テサリシ處一日我國ノ佛印ニ對スル増兵ト

共ニ「タイ」國ノ危機傳ヘラルルヤ俄然不安ヲ感シ始メ更ニ日滿華共同聲明ニ於ケル首相ノ演說報道セラルルニ至リテハ遂ニ最後ノ希望ヲモ失ヒ最早太平洋ノ戦火避けラレスト爲シ一朝有事ニ際シテハ國民ノ一致團結ヲ要望セリ各紙論調左ノ通り

一、「ジャバボーデ」

東條首相ノ言ハ「最早多言ヲ要セス單ニ戰鬪開始アルノミ」ニ盡キテ平和的解決絶望ナルヲ示唆セル處緬甸ヨリ「ニュージールランド」ニ至ル間ノ諸國ハ既ニ對抗準備完了シ居リ蘭印政府ト其ノ他諸國トノ協力モ亦満足シ得ヘキ状態ニアリ此ノ際國民ハ動搖スヘカラス只管政府竝ニ其ノ武力ヲ信賴セヨ

二、「ニユースブラッド」

東條首相ノ言ハ平和的解決ノ「チャンス」僅少トナレルヲ示シ居リ此處ニ太平洋ノ危機ハ單ニ二時間ノ問題トナレリ國民ハ如何ナル事態發生スルモ冷靜ヲ持シ其ノ義務ヲ遂行スヘシ

「タイ」、河内、新嘉坡、馬尼刺、濠へ轉電セリ

河内ヨリ西貢へ轉電アリタシ



669

昭和16年12月1日
在スペイン須磨(弥吉郎)公使より
 東郷外務大臣宛(電報)

日米会談決裂の場合はいち早く蘭印を攻略し

石油補給を確保すべき旨意見具申

マドリード 12月1日後発

本省 12月3日前着

第一六九號(大至急、館長符號扱)

累次往電ニテ御承知ノ通り英米ハ當初ヨリ日本ヲ或ル程度迄樞軸ヨリ離シ得ヘシト考ヘ込ミ居リ英カ「ダフ、ターパ―」等ヲ簡派迄シテ米ニ先走ツテ強カリヲ示威シ居ルハ畢竟スルニ夫レカ却テ日米妥協ヲ促進スル途カトモ考ヘ居タル爲ナルカ如キ形勢モアリ御覽ノ如キ軍事準備ハ進メ乍ラモ實ハ日本トノ衝突ヲ避ケ得レハ幸ヒナルヲ願ヒ居ルヤニモ看ラルルニ付テハ日米會談愈々決裂ノ曉ニモ英米ニ對シ我方ヨリ進シテ事ヲ構フル姿勢ハ極力之ヲ避ケ飽迄支那事變解決ノ大義名分ニ立チテ緬甸「ルート」ノ閉塞ヲ斷行スル氣配ヲ作爲シ此ノ方面ニ英國ノ注意ヲ集メ置キ乍ラ逸早く蘭印攻略ニ出テ石油補給ノ途ヲ先ツ確保スル^(確カ)ノ擧ニ出ルコト最モ機宜ニ適スルヤニ認メラル卑見御參考迄

670

昭和16年12月5日
在バタビア石沢総領事より
 東郷外務大臣宛(電報)

蘭印在留邦人の引揚げ方針請訓

バタビア 12月5日後発

本省 12月6日前着

第一三二七號(大至急、外機密)

一、對日資金凍結以來之カ解除問題及爲替金融關係事項ノ交渉ハ主トシテ今川ヲシテ當ラシメ來リタル處今般今川ニ歸朝方指令アリ又取引問題ハ主トシテ小谷ヲシテ交渉セシメ來リタル處之亦曩ニ歸朝方御訓令アリ政府ニ於カレテハ交渉ヲ御斷念成リタルコトト拜察ス

二、一方各商社銀行企業關係者ニ於テモ最近迄ハ「パーター」ニ依ル通商持續及凍結解除交渉ニ希望ヲ繋キ之カ成立ヲ期待シ本官モ亦御訓令ヲ體シ小規模乍ラ貿易再開ノ場合ニ備フル爲寧口積極的ニ責任者及少數社員ノ殘留方ヲ懲滙シ來リタル次第ナリ今日トナリテハ日米交渉ヲ繞ル太平洋情勢ノ緊迫化竝ニ之ニ伴フ英蘭臨戰體制ノ強化ニ鑑ミ何人モ最悪ノ事態發生ハ最早不可避ト觀念シ此ノ際蘭側提案ノ「ライン」ニ依ル「パーター」取引ノ如キ

ニ對シテハ全然興味ヲ失ヒ當領ニテ徒食スルハ無意味ニシテ寧口又ハ我勢力下ノ共榮園ニ於テ御奉公致シ度シト熱望シ居リ本官トシテモ現下ノ狀勢トナリテハ此等重要人物ヲ速ニ歸國セシメ今後ノ活用ヲ計ルコト賢明ナリト
思考ス

三、(以下十七語不明、照會中電信課)^(編註)

トモ打合セノ上「バタヴィア」以外ノ支店出張所ハ之ヲ全部閉鎖シ當地ニ集結待機シ居ル狀態ニ鑑ミ配船日取御決定ノ場合ハ殘留民全般ニ對シ左記「ライン」ニ依リ本官ヨリ引揚ヲ勸誘致度キニ付御諒承相成度シ至急何分ノ儀御回電アリタシ

イ、銀行ハ正金當地支店ノミ最少限度ノ社員ヲ殘シ他行ハ全部引揚クルコト(領事館ノ存續スル限り機密金ノ收支竝ニ凍結資金跡始末等ノ關係ニテ正金ノミハ殘留ノ必要アリト認メラル)

ロ、商社ハ三井、三菱始メ全部引揚クルコト

ハ、南海及南倉ハ信賴シ得ル外國人使用人ニ後事ヲ託スル手配可能ニ付日本人關係者ハ全部引揚クルコト

ニ、農園關係ハ既ニ野村東山ノ如キ外國會社ニ委託經營

契約成立濟ノモノアリ又武長ノ如キ外人重役ニ一任シ引揚ヲ了セルモノアルモ尙「スマトラ」方面ニハ多數護謨農園關係者殘留シ居ル處此ノ際は等モ至急前記農園ノ措置ニ做ハシメ已ムヲ得サル場合ハ爪哇佐藤、阿波、カワタ農園、西「ボルネオ」塚田農園其ノ他ノ實行セル例ニ做ヒ信賴シ得ル土人僱傭人ヲシテ管理又ハ監視セシメ邦人關係者ハ全部引揚ケシムルコト(護謨園ハ相當期間手入レ不充分ナリトモ荒廢ノ惧少シ)

ホ、其ノ他ノ企業關係ニ於テハ既ニ南洋林業ノ如キ現地ニ二名ノミ殘シ引揚ヲ了シタルモノアルモ尙「ボルネオ」物産、「ブートン」眞珠ノ如キハ本社ノ指令ナキ爲相當數殘留シ居リ又B、O、Mハ特別ノ指令ニ依リ當地ニ事務關係者三名現業員四名待機シ居ル他現地ニ尙二一名殘留セル處右モ最惡ノ場合蘭側ニ逮捕セラレ他ノ地域ニ拉致セラルルコト確實ニ付寧口引揚シムルコト

四、尙船乘ノ關係上今次引揚船カ特ニ時間ノ節約ヲ必要トスル場合ハ「バタヴィア」ノミノ寄港トセラルルモ結構ニ付御含置キ相成度シ右ノ場合ハ引揚希望者ハ全部「バタ

「三字分アモ ヴイア」ニ待機スル様極力配慮致スヘシ
ニ轉電セリ

編 注 照会結果は見当らない。

